

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081101) 大学入門ゼミ L(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 谷口 弓恵, 古橋 紀宏, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081102) 大学入門ゼミ L(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 一色 玲子, 古橋 紀宏, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081103) 大学入門ゼミ L(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 神野 幸隆, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081104) 大学入門ゼミ L(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 小方 朋子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081105) 大学入門ゼミ L(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 倉野 晴代, 清水 颯人, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081106) 大学入門ゼミ L(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 植田 和也, 清水 颯人, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】 レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】 情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】 日本語技法 5 【共通コンテンツ④】 プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】 学校園を「探究」しよう! (1) 課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】 学校園を「探究」しよう! (2) 個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】 学校園を「探究」しよう! (3) グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】 学校園を「探究」しよう! (4) プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】 学校園を「探究」しよう! (5) 発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。

第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。

第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。

第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。

第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。

(詳細は、授業時に指示する予定です。)

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081201) 大学入門ゼミ J(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学生活と(刑)法 Introduction to (Criminal)Law	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 天田 悠	関連授業科目 刑事法入門、民法入門、憲法入門、刑法総論、刑法各論Ⅰ			
	履修推奨科目 同上			
学習時間 授業90分×15回+自習時間(事前学習30時間+事後学習30時間) ※下記【教科書】の該当頁を事前に読んでおくことが履修の前提です。				
授業の概要 法学部に入学したばかりの皆さんにおいては、「(刑)法とは何か」、「(刑)法を学ぶ意味は何か」について、具体的なイメージを持ち合わせていない方がほとんどだと思います。しかし、大学生活の中には、(刑)法と密接に関わりあう問題が数多く潜んでいます。この科目は、大学生活をつうじて「(刑)法」を考えることで、今後皆さんが学習する法律関連科目をより深く理解できるようになるための橋渡しをすることを狙いとするものです。				
授業の目的 この授業は、大学生活をつうじて(刑)法について考え、議論する力を養成することを目的とします。具体的には、第1回～7回では、判例の調べ方、文献の読み方、報告の方法、レジュメの作成方法といった演習科目における種々のマナーの習得を、第8回～15回では、「(刑)法」というツールを使って大学生活の諸問題を自分なりに考察できるようになることを目標とします。				
到達目標				
以上の目的を達成するために、この授業では、以下の(1)～(3)を到達目標とします。 (1)判例の検索方法や文献の引用方法など、法律学を学ぶ上で最低限必要な作法を身につけることができる(第1回～第7回:共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2)(刑)法学に関する基礎知識を習得することができる(第8回～第15回:共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3)以上を前提に、「大学生活と(刑)法」をめぐる諸問題につき、自分なりの回答を示すことができる。				
成績評価の方法と基準 各受講生が担当して行う報告の内容(50%:到達目標(1)(2)に対応)、議論への積極的参加(50%:到達目標(2)(3)に対応)を総合的に評価します。 なお、この授業はゼミですので毎回出席をとります。欠席の場合は、理由を添えて必ず事前にメールでその旨連絡して下さい。無断欠席・遅刻に対しては厳正に対処します。また、授業に2/3以上出席しなければ、単位を認定しません。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 法学部講演会 第4回 リーガル・リサーチ(1):判例調査の意義と方法 第5回 リーガル・リサーチ(2):法律文献の読み方・調べ方 第6回 文献報告の方法とレジュメの作成(1):情報整理の方法 第7回 文献報告の方法とレジュメの作成(2):推敲の技法 第8回 プレゼンテーション準備(1):文献報告の分担決め 第9回 プレゼンテーション準備(2):(グループ)ディスカッション 第10回 プレゼンテーション(1):後掲教科書・第Ⅰ部ACT1の報告とそれに基づく議論				

- 第11回 プレゼンテーション（2）：後掲教科書・第Ⅰ部ACT2の報告とそれに基づく議論
第12回 プレゼンテーション（3）：後掲教科書・第Ⅰ部ACT3の報告とそれに基づく議論
第13回 プレゼンテーション（4）：後掲教科書・第Ⅰ部ACT4の報告とそれに基づく議論
第14回 プレゼンテーション（5）：後掲教科書・第Ⅰ部ACT5の報告とそれに基づく議論
第15回 春学期の総括

※受講生の人数や関心次第では、上記日程および報告テーマは一部変更する可能性があります。そのため、第1回のオリエンテーションの際に、予習・復習の案内などを記載した、より詳細な予定表（初回配布用シラバス）をお渡しします。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 第2回 中央図書館と法学部資料室の所蔵内容を把握し、授業準備や自習の際に活用できるようになる。（5時間）
第3回 法学部講演会を聴講し、小レポートを作成する。（10時間）
第4回 任意のテーマに関する判例を調査し、授業時に紹介できるよう準備する。（6時間）
第5回 任意のテーマに関する法律文献を収集し、授業時に紹介できるよう準備する。（6時間）
第6回 指定教科書を読み込み、レジュメを作成することで内容を整理する。（6時間）
第7回 第6回の授業時に作成したレジュメを推敲し、その内容をブラッシュアップする。（6時間）
第8、9回 第10～14回での報告に向けて指定教科書や関連図書を読み込み、報告レジュメを作成する。（15時間）
第10～14回 指定教科書に事前に目を通し、授業時に質問が出せるよう準備する。（6時間）
第15回 プレゼンテーションの内容を踏まえて、総括レポートを作成する。（10時間）

【履修上の注意】

この授業は対面での実施を基本とします。ただし、状況により、教員の判断で授業の全部または一部を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等

【教科書】

江藤祥平ほか『大学生活と法学』（2022年、有斐閣）、1,800円（税抜）

【参考書】

田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート〔第2版〕』（2019年、有斐閣）、1,700円（税抜）

その他、必要に応じて教場で指示します。ただし、最新の六法は毎回必ず持参してください。

オフィスアワー 火曜日5時限目・幸町南キャンパス6号館3階（できるかぎり事前にアポをとってください）

なお、Zoom等を用いたオンラインでの面談も対応可能です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ゼミは法的思考力とその表現方法を学ぶ場です。したがって、積極的に発言・質問することが求められます。ただ出席してその場にいるだけの学生に対しては、成績評価もおのずと厳しくなりますので、そのつもりで参加してください。とはいえ、法律学（特に刑法）に少しでも興味がある人が気負うことなく楽しく学べる授業にしたいと思っています。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081202) 大学入門ゼミ J(2) Startup Seminar on Academic Literacy アカデミックスキルの実践	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 春日川 路子	関連授業科目 民法、刑法、憲法 履修推奨科目 民法、刑法、憲法		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習15時間+事後学習45時間)			
授業の概要 大学では専門的な学問領域について、自分で学習することが要求されます。具体的には、レポートを作成したり、テーマに関する報告・発表を行うこともあります。さらに、グループに分かれて複数の人と協力して学ぶ機会もあります。この授業では、法律や現代社会の問題をテーマとする文献の輪読やその内容についての文章執筆、口頭発表を通して、大学で学ぶ上で参考となる技術や方法を実践します。			
授業の目的 法律に関する文章を題材として、大学での学習の参考となる技術や方法を知り、それらを与えられた課題において適用できるようになる。			
到達目標			
1. 大学での学習の参考となる、文章執筆や発表に関する技術や方法を列挙できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 学習した技術や方法を、近時の法律や社会問題に関する文章を中心とする課題に適用できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」,「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. クラス全体およびグループごとの活動や討論に寄与できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 提出物の提出と課題への取り組み状況(45%、特に到達目標1、2に対応)、授業中の態度(発言、クラス全体またはグループワークへの寄与、55%、特に到達目標2、3に対応)から総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
新型コロナウイルス感染症の感染状況や授業の進捗状況等により、予定を変更することがある。 この授業は全回対面授業を行う予定である。			
第1回 ガイダンス 第2回 図書館・資料室ツアー(予定) 第3回 情報整理の方法、日本語技法、レポートの書き方基礎 第4回 レポートの書き方①テーマの決め方、執筆の手順 第5回 法学部講演会(予定) 第6回 レポートの書き方②推敲 第7回 プレゼンテーションの方法①プレゼンテーション導入 第8回 プレゼンテーションの方法②実践 第9回 発表の実践①グループ発表前半 第10回 発表の実践②グループ発表後半 第11回 発表の実践③振り返り 第12回 期末報告①グループ1, 2 第13回 期末報告②グループ3, 4 第14回 期末報告③グループ5 振り返り 第15回 授業全体の振り返り			

自学自習のアドバイス

授業内で使用する資料を事前に読み、授業に参加すること。

準備学習として資料を読んで疑問点を明らかにする、意見を考える（各回0.5時間、合計7.5時間）、発表の実践の際にはそれに向けて特に準備をすること（合計7.5時間）。

事後学習として資料を再度読む、授業で取り扱った内容を思い出す（各回1.5時間、合計22.5時間）、自身および他のグループの発表の内容および発表態度を思い出して、振り返る、指示されたテーマについてレポート等を作成する（授業全体につき合計22.5時間）。

授業のなかで紹介された具体的な技術や方法を、ほかの授業のなかでも実践するとよい。

教科書・参考書等

授業内で適宜資料を配付する。

オフィスアワー 木曜12時30分から13時30分（前期後期共通）

幸町キャンパス南6号館4階春日川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習形式の授業なので、授業に毎回出席し、他の受講者と意見を交換するなど積極的に発言してほしい。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Ep2 授業科目名 (時間割コード:081203) 大学入門ゼミ J(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ 法学部に必要な基本スキルを学ぶ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 PBL	単位数 2	
担当教員名 辻上 佳輝	関連授業科目 なし		
	履修推奨科目 民法入門 刑法入門 憲法入門		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 大学生の基本スキルである「文章を書く」「情報を集める」に加え、最近一部で重要視されている「プレゼンテーションする」能力に関して、学生各人が現在持っている能力を確認し、それを少しでも向上させようとするのが本講義の目的である。			
授業の目的 本講義では、法学部で学ぶ上で最低限必要なスキルが今どのレベルにあるか確認し、それを少しでも向上させる。学生は、講師から出される宿題を提出し、講師はそれを基に問題点を指摘したり、添削したりする。この講義を受講することにより、法学部で用いる基本的な能力を身に着けることができる。			
到達目標			
1 自分の文章レベルが把握できる。 2 自分のプレゼンのレベルが把握できる。 3 情報検索をするために将来必要な最低限の技法が身に付く。 4 添削等を通じて1～3の能力を向上させようという気持になる。			
成績評価の方法と基準			
1 講義へのコミット 60% 2 宿題の提出状況(出来は問わない) 30% 3 講義中の発言等 10%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス・顔合わせ・名札作成 第2回 ショックを受けよう! 「4年後の到達点」を見てみよう 【宿題】感想文 第3回 情報を集めよう! 【宿題】ネットを使わないで調べてみよう 第4回 情報収集の方法(資料室・図書館案内) 第5回 文章を書いてみよう 【宿題】文章の趣旨をまとめなさい 第6回 文章を書いてみよう 【宿題】「私は〇〇な△△を目指す」という文章を書く 第7回 思い切って判決文を読んでみよう 【宿題】今回の判決の事案をまとめなさい 第8回 裁判所見学の準備をしよう 【宿題】民事裁判と刑事裁判は何が違うか。 第9回 裁判所見学 第10回 プレゼンの基礎 【宿題】3枚の紙芝居にまとめなさい 第11回 プレゼンの基礎 【宿題】次回発表しなさい 第12回 宿題報告 【宿題】レポートしなさい 第13回 レポートを書いてみよう 【宿題】添削しなさい 第14回 宿題報告 第15回 まとめ			
教科書・参考書等 用いない			
オフィスアワー 月曜日2限を一応指定しておく。学生はこれにこだわらずいつでも質問してよい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

講義の順序は変更することがある。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081204) 大学入門ゼミ J(4) Startup Seminar on Academic Literacy アカデミックスキルの実践 Application of Academic Skill	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 堤 英敬	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 大学での学びにおいては、正解の決まっていない問題に対して自ら答えを導き、それを適切に表現することが求められます。この授業では、情報整理の方法や日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、大学における学びに際して必要とされる「アカデミックスキル」について、講義・グループワークを行います。その上で、グループで今日の政治・経済・社会的課題について調査し、その結果について報告をしてもらいます。			
授業の目的 大学での学びにおいて必要な基本的スキルを身につけること、法学や政治学を学ぶ上で求められる、現代の社会が抱える課題に対する関心を高めること、他者と協力して調査・研究を行う姿勢を身につけることが、この授業の目的です。			
到達目標			
1. 情報を適切に収集・整理して調査・研究を行い、他者に伝わるよう口頭や文章で表現できる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークにおいて積極的に行動し、他者と協調して課題に取り組むことができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 現代社会が抱える課題を自らと関連付けて理解し、その解決策を探求することができる (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 課題の提出状況 (30%:到達目標1に対応)、授業やグループワークへの参加度 (10%:到達目標2に対応)、個人報告の内容 (20%:到達目標1に対応)、グループ報告の内容 (20%:到達目標1, 2に対応)、期末レポート (20%:到達目標3に対応) によって評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス・授業の進め方について/自己紹介 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 情報整理の方法 第4回 日本語技法 第5回 法学部・講演会 第6回 レポートの書き方 第7回 プレゼンテーションの方法 第8回 プレゼンテーションの実践 (1～2グループ) 第9回 プレゼンテーションの実践 (3～4グループ) 第10回 プレゼンテーションの実践 (5グループ) 第11回 グループワーク (テーマの決定とディスカッション) 第12回 グループワーク (グループ報告の準備) 第13回 グループ報告 (1～2グループ) 第14回 グループ報告 (3～5グループ) 第15回 まとめ			

【授業及び学習の方法】

第2～7回は、グループワークを取り入れながら講義を中心に行います。また、第8～10回では、全員に、新聞記事を題材としたプレゼンテーションをしてもらいます。第11回以降は、グループごとにテーマを設定し、調査・報告を行います。

なお、この科目は全回対面授業を行います。状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。また、授業の順番を変更する場合があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第2～7回は毎回、授業内容に対応した課題を出題するので、それに取り組むようにしてください（4時間×6）。第8～10回では、新聞記事を題材として、社会的課題についてプレゼンテーションをもらうので、その準備を行います（8時間）。第11回以降に行うグループでの調査・報告では、担当する作業に取り組むとともに、授業外でもグループごとに適宜、打ち合わせや意見交換等を行ってください（18時間）。また、グループでの調査に基づいて、期末レポートを作成してもらいます（10時間）。

教科書・参考書等

教科書は指定しません。

参考書については、授業時に適宜、指示します。

オフィスアワー 火曜日12:30～13:30（幸町南6号館5F）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席は厳禁です。また、3回以上欠席した場合は、単位を認定しません。

グループワークを多く取り入れますので、積極的に議論や作業に参加するようにしてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 081205) 大学入門ゼミ J(5) Startup Seminar on Academic Literacy グローバルな諸問題を考える Studies on Global Issues	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～	
	水準 学士: 入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 鶴園 裕基	関連授業科目 国際関係論 履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(60時間)				
授業の概要 グローバリゼーションは長期的な変動のプロセスであると同時に、今日の国際関係の諸問題とも密接に結びついている、現在進行形の現象である。本授業では入門的なテキストの読解を通じて、グローバルな諸問題への複眼的な視座を養う。また大学における発表や討論の方法の習得を目的として、輪読のグループワークを行う。				
授業の目的 大学での学びに必要な基本的スキルを習得すること。グローバルな諸問題のうち、少なくとも一つについて、自ら調べて理解を深められる能力を身に付けること。他者との協力を通じて調査・研究を進められるような態度・姿勢を養うこと。				
到達目標				
1. テキストの内容を適切に要約し、論理的に説明できるようになる(「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. テキストに関連する情報を自ら探索し、それを批判的に評価できるようになる(「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. グローバルな諸問題について自分自身の見解を伝え、討議できるようになる(「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業・グループワークへの参加度(30%) [到達目標3に対応]、小課題(20%) [到達目標1に対応]、期末レポート(50%) [到達目標1と2に対応] によって評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1週 オリエンテーション/自己紹介 第2週 日本語技法(学術的文章の読み方・書き方) 第3週 プレゼンテーションの方法(レジュメの作成・報告方法) 第4週 情報整理の方法(図書館の利用と情報検索の仕方) 第5週 輪読グループワーク: 図書(A)・初級読書 第6週 法学部・講演会 第7週 輪読グループワーク: 図書(A)・点検読書 第8週 輪読グループワーク: 図書(A)・分析読書 第9週 輪読グループワーク: 図書(A)・シントピカル読書 第10週 レポートの書き方 第11週 輪読グループワーク: 図書(B)・15、16世紀の世界 第12週 輪読グループワーク: 図書(B)・17世紀の世界 第13週 輪読グループワーク: 図書(B)・18世紀の世界 第14週 輪読グループワーク: 図書(B)・19世紀の世界 第15週 レポート草稿への相互評価				
【授業及び学習の方法】 グループによるテキスト輪読の形式でゼミを進める。各班で報告担当者を決め、四回の輪読で一冊のテキスト				

トを読み終える。テキストごとに新しいグループを編成する。第2回-第4回、及び第10回では基礎的なアカデミックスキルについて講義形式の授業を行う。教科書に指定した二冊は初回授業前に購入しておくこと。この科目は全回対面授業を行う。

【自学自習のためのアドバイス】

《予習》

テキストの輪読箇所を全員毎回事前に読んでおくこと。重要な記述だと考えた箇所、読んで面白いと感じた箇所、分からないと思った箇所に線を引く（赤-緑-青など、それぞれ異なる色を使うとよい）。必要であれば欄外にコメントを書き込み、付箋を貼りながら読み進める。

《復習》

輪読を通じてひっかかりを覚えた単語、概念などが出てきた箇所を再度読み直す。その上で、世界史の教科書や他の参考書・事典類で関連項目を調べる。

《予習・復習時間の目安》

上に述べた事前のテキスト読み込み、事後のテキスト振り返りは、各自の読書力や調べる技能によって必要な時間が変わってくる。テキストの難易度と自らの能力に応じて、時間の多寡にかかわらず「わかるまで取り組む」、または「何がわからないかがわかるまで取り組む」ことが重要である。なお、大学が推奨している予習復習時間の合計は60時間である。

教科書・参考書等

《教科書》

(A) M. J. アドラー、C. V. ドーレン（外山滋比古、榎未知子訳）『本を読む本』（講談社、1997）、1070円＋税

(B) 川北稔『世界システム論講義??ヨーロッパと近代世界』（筑摩書房、2016）、1100円＋税

《参考書》

戸田山和久『思考の教室』（NHK出版、2020）、1800円＋税

*参考書は購入不要

オフィスアワー 毎週木曜日13:30-14:30 (幸町南キャンパス6号館3階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員およびグループの他の受講生に無断での欠席は厳禁する。3回以上繰り返した場合には成績評価の対象外となる。事情があって欠席する可能性がある場合には、事前に教員およびグループの他の受講生に相談すること。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081206) 大学入門ゼミ J(6) Startup Seminar on Academic Literacy 法学への誘い Introduction to Law	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 溝渕 彰	関連授業科目 履修推奨科目 法学部の入門科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備時間30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 大学に入学したばかりの大学生を法学の世界へと誘っていくことを内容とする講義を行います。前半は、法学を学ぶために必要とされる基礎的なスキルについて教えます。また、後半は、グループに分けて割り当てられた判例につきプレゼンテーションを行い、学生間で議論します。			
授業の目的 法学を学ぶにあたって高校から大学への橋渡しを行うと共に、大学で法学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを目的にしています。			
到達目標			
1. 法律の文献を読み、理解・分析することができる。 2. 法学の資料を効率的に収集できる。 3. プレゼンテーション向けの資料を作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 5. 受講生間で建設的な議論を行うことができる。 6. 法学の基本的なレポートを作成することができる。			
本演習は、以下の共通教育スタンダードに対応しています。 ①課題解決のための汎用的スキル〔言語運用能力〕 ②広範な人文・社会・自然に関する知識〔知識・理解〕 ③21世紀社会の諸課題に対する探求能力〔課題探求能力〕			
成績評価の方法と基準 ①授業への貢献度30%(到達目標の1-6に対応)、②中間課題〔ミニレポート〕20%(特に、到達目標6に対応)、③プレゼンテーション50%(特に、到達目標の3,4,5に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス 第2回 情報整理の方法・日本語技法 第3回 図書館・資料室訪問 第4回 法律文献の読み方 第5回 判例の読み方 第6回 レポートの書き方 第7回 中間課題 第8回 プレゼンテーションの方法 第9回 グループワークの取り組み方 第10回 グループワーク・実践!プレゼンテーション① 第11回 グループワーク・実践!プレゼンテーション② 第12回 グループワーク・実践!プレゼンテーション③ 第13回 グループワーク・実践!プレゼンテーション④ 第14回 グループワーク・実践!プレゼンテーション⑤			

第15回 講演会(予定)

- ・第10回以降は、割り当てられた判例を題材にグループごとにプレゼンテーションを行っていただきます。また、プレゼンテーションを基にゼミ生間で討論を行います。
- ・この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔講義(オンデマンド講義を含む)に変更する可能性があります。なお、講義計画は、変更されることがあります。
- ・講義で配布した配布資料を参考に予習・復習を行ってください。

【自学自習のためのアドバイス】

2回～6回 授業で学ぶ前に指定された教科書等の文献をざっと読み、授業後にもういちど教科書等の文献を復習する。(15時間)

第7回 中間課題を作成する(5時間)

第9～14回 受講生をいくつかのグループに分け、そのグループで共同して指定された判例についてプレゼンテーションを行う。(40時間)

教科書・参考書等

教科書：弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016年）〔2,000円+税〕

なお、適宜、配布資料をMoodleにアップします。また、参考書は、適宜、講義の際に紹介します。

オフィスアワー 未定。最初の講義でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習に六法を持参するようにして下さい。

ナンバリングコード B1ACL-cabG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081207) 大学入門ゼミ J(7) Startup Seminar on Academic Literacy グローバル化と法・政治 (Globalization, Law and Politics)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 山本 慎一	関連授業科目 国際関係論、平和学、国際法I・II・III			
	履修推奨科目 国際関係論、平和学			
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間、サブゼミの実施を含む)				
授業の概要 このゼミでは、グローバル化が進む現代社会を法と政治の切り口から捉えて、受講者の皆さんとともに考えていきます。国際社会における法や政治の動きが、日本の社会にどのような影響を与えているのか、逆に日本の国内法や政治・政策の動向が、国際社会の法や政治にどのような影響を与えているのか、具体的な事例を素材に検討していきます。				
授業の目的 大学入門ゼミの目的は、法学部生として求められる基礎的な学習方法を身につけることにあります。さらに本ゼミで扱う内容は、国際社会の諸課題に対する問題意識を高め、国際法や国際関係論といった法学部の専門科目で学ぶ内容の導入としても位置づけられます。本ゼミを通じて、法学部で学ぶ基礎力を身につけるとともに、広い視野で物事を考える意識を育ててください。				
到達目標				
この授業の到達目標は、下記の3点です。 ①グループワークを通じて調査・報告・議論を行うことで、法学部生として必要な学習・探究能力を身につける(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ②グループワークを通じて他者の考え方に触れながら多様な視点に接するとともに、協調性を養い大学生活における人間関係を構築する(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 ③自身が関心のあるテーマについて、国際と国内の両面から捉え、課題と解決策を考え説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。				
成績評価の方法と基準 ゼミ形式のため毎回の授業に出席するだけでなく、 A) 議論への参加の積極性や発言内容(特に到達目標①及び③に対応) B) グループワークによる報告内容(特に到達目標①及び②に対応) C) レポートの内容(特に到達目標①及び③に対応) を総合的に評価します。 評価の割合は、A)30%、B)20%、C)50%です。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
このゼミでは、まずは受講者が関心のあるテーマや社会問題などを、その理由とともに個別に発表してもらいます。そしてその問題が、国際レベルと国内レベルでどのような関係性を持ち、法や政治とどのように関わっているのかを調べて報告し、意見交換や議論をしていきます。 テーマのまとまりに応じてグループを構成し、グループワークを通じて学習を進めていきます。グループワークによって調べた内容は全員の前で報告し、質疑応答を含めた意見交換を行い、議論を進めていきます。このように、自身の関心のある問題を主体的に調べて報告し、他者と意見交換をすることで、自分とは異なる考え方に触れながら、課題や解決策を考え、関心のあるテーマへの理解を深めます。 グループワークを通じた主体的な学習姿勢が求められますので、問題意識を持って自ら進んで物事を調べ、結果をまとめ、自らの意見を表明する努力が必要です。				
報告担当者のレジュメは遅くとも3日前までにTeamsを通じて全員宛てに送付し、受講者はレジュメを各自で印刷して持参するか電子機器上で閲覧しながら学びます。				

各受講者は事前にレジュメに目を通し、必要に応じて知識を補強し、疑問・質問事項を整理して、議論点における自身の見解を準備した上で、入門ゼミ当日は積極的に発言してください。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス — ゼミの目的・運営方針の説明、自己紹介、関心のあるテーマの発表
○第2回 情報整理の方法／日本語技法
○第3回 レポートの書き方／プレゼンテーションの方法
第4回 施設訪問（大学図書館・法学部資料室） ※訪問時期は開講時に指示する。
第5回 国際社会の諸課題と法・政治の仕組み【解説】
第6回 グループワークA-1（報告準備）
第7回 グループワークA-2（報告・議論）
第8回 グループワークA振り返り
第9回 グループワークB-1（報告準備）
第10回 グループワークB-2（報告・議論）
第11回 グループワークB振り返り
第12回 グループワークC-1（報告準備）
第13回 グループワークC-2（報告・議論）
第14回 グループワークC振り返り
第15回 全体まとめ

※上記計画は目安であり、受講者の関心テーマや施設訪問の日程次第では、内容や順番を変更する場合もある。

※○印は技術的な内容の解説を行うが（研究倫理教育を含む）、グループワークの中に採り入れて実施する場合もある。

※グループワーク実施時に、必要に応じて解説の時間を設けることもある。

【自学自習のためのアドバイス】

グループワークによる報告準備として、授業時間以外にも、サブゼミとして自主的にグループメンバーで集まって話し合う時間が求められます。各グループ内でスケジュールを調整し、授業時間外でもメンバー達と共に積極的に学び合ってください。授業計画に合わせた時間外学習の目安時間は下記を参照してください。

- 第2回 情報整理の方法の実践と日本語技法の練習（2時間）
第3回 法学部の講演会テーマを素材にしたレポート作成（6時間）
第5回 国際法及び国際政治の入門書の読解（4時間）
第6回 グループワークの報告準備（5時間）
第7回 グループワークの報告資料作成・報告練習・教訓整理（6時間）
第8回 グループワークの振り返り（3時間）
第9回 グループワークの報告準備（5時間）
第10回 グループワークの報告資料作成・報告練習・教訓整理（6時間）
第11回 グループワークの振り返り（3時間）
第12回 グループワークの報告準備（5時間）
第13回 グループワークの報告資料作成・報告練習・教訓整理（6時間）
第14回 グループワークの振り返り（3時間）
第15回 期末レポートの作成（6時間）

教科書・参考書等

教科書は特に指定せず、必要に応じて参考文献等を紹介しします。

1000円以内で入手可能な関心のあるテーマの新書を読み進め、2000円台で入手可能な国際法や国際関係論（国際政治学）の入門書に目を通し、問題意識を養うとともに、課題や解決策を考えてください。

オフィスアワー 【幸町南6号館（法学部棟）3階】

《前期》木曜日12：00-13：00

《後期》月曜日12：00-13：00

（事前にメールで予約した人を優先。事前連絡があれば、他の日時でも対応可能。）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席は厳禁。グループワークによって報告準備を行うので、授業時間外の自発的な学習が必要となります。ゼミの仲間と協調しながら、共に学び合う姿勢を大切にしてください。

授業連絡は主にTeams又はメールを通じて行います。受講者名簿を作成して連絡先を共有しますので、初回の授業で添付ファイルの送受信が可能で公開に支障のない連絡用メールアドレスを教えてください。

教員の実務経験との関連

外務省の国際平和協力調査員及び平和構築人材育成事業の担当経験を踏まえて、外交政策や平和構築分野の国際的取り組みを解説し、理論と実践の両面にまたがる演習を行う。

ナンバリングコード B1ACL-cbaG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081208) 大学入門ゼミ J(8) Startup Seminar on Academic Literacy 日本国憲法はいかにして作られたか。 How was the Constitution of Japan established?	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 山本 陽一	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 この授業担当者は、古関彰一『日本国憲法の誕生 増補改訂版』によって、現行憲法の制定過程について学習指導します。				
授業の目的 憲法は歴史のある時点で作られましたが、それは単なる歴史的存在ではなく、現在の日本に住むわたしたちに直接的にかかわっていることでもあります。わたしたちはそれを適切に理解し、偏った言論に惑わされないようにしなければなりません。そのための定見を身に着けます。これによって立憲主義の理解が深まります。				
到達目標				
1. 現行憲法の制定過程について知る。共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 憲法とは何かという根本問題について批判的に考える。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 他者のいうことを読解・理解し、それについて自分の意見を明確にすることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)				
成績評価の方法と基準 担当箇所の報告ならびに質疑応答における授業への取り組みをそれぞれ同一程度に勘案の上、評価します。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 古関彰一『日本国憲法の誕生 増補改訂版』を通読します。 第1回 ガイダンス& I 「玉砕」から「平和国家」へ 第2回 II 最初の憲法改正案 第3回 III 民権思想の復権 第4回 IV 明治憲法の評価をめぐって 第5回 V GHQ案の基本設計 第6回 VI GHQ案——「戦争の放棄」の深層 第7回 VII GHQ案の天皇・人権・地方自治条項 第8回 VIII 第二の「敗戦」 第9回 IX 日本化への苦闘 第10回 X 草案要綱の発表へ 第11回 XI 東京帝国大学「憲法研究委員会」の役割 第12回 XII 米国政府対マッカーサー 第13回 XIII 帝国議会での修正 第14回 XIV 「芦田修正」の残映 第15回 まとめ& XV 「押しつけ」が残したもの				

【授業及び学習の方法】

テキストに関連する資料もあわせて読んでいきます。

報告者はレジュメを原則として2日前までに参加者全員に添付ファイルで配布してください。予習には1～2時間をかけることが望ましいです。

この科目は原則対面授業をおこないます。状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。

文章作法等の一般的なことからについては適切な回において指導します。また、図書館の利用や講演会に授業が当てられる場合は、そちらを優先します。

教科書・参考書等

古関彰一『日本国憲法の誕生 増補改訂版』（2019年、岩波現代文庫）（1720円＋税）を生協で購入してください。

オフィスアワー 前期金曜12:00～13:00（山本陽一研究室、法学部5F）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業を欠席する場合は、事前にメールでお知らせください。不測の事態のときは、事後にすみやかに連絡をしてください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081301) 大学入門ゼミ E(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配付する。

オフィスアワー 金曜日4限、南7号館2階

上記以外の場合事前にメールでアポイントをとること。

場所はアポイント時にお知らせします。

なお、質問は授業後に教室でも受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、無断欠席は厳禁。

私語など、他者の迷惑となるような行為は慎むこと。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081302) 大学入門ゼミ E(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

初回時に指定する。

オフィスアワー 月曜日3時限目（幸町南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学入門ゼミではすべての授業に出席することが前提となる。その上で、グループワークなどに積極的に取り組む必要がある。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081303) 大学入門ゼミ E(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

資料については都度、配布する。

オフィスアワー 火曜日 4時限・経済学部 2号館 2階朴研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、無断欠席は厳禁

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081304) 大学入門ゼミ E(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

必要な資料等をその都度配布します。

オフィスアワー 火曜日4限

南2号館3階 早木研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

レポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、自分の伝えたいことを正確かつ分かりやすく伝える技術は、大学生活ではもちろん、卒業してからも非常に役に立ちます。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081305) 大学入門ゼミ E(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 笛木 琢治	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

文献リストを初回ガイダンスで配布します。また、授業中にも適宜紹介します。

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。履修マナーはしっかり守ってください。

・授業で理解できなかった点があればオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。歓迎します。

・他者の報告・意見を、常に敬意を持って尊重するようにしてください。このことを前提に、自らの意見・批判を述べるように心がけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081306) 大学入門ゼミ E(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 授業内で指示します。場所は南3号館3階二ツ山研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学での学びの基礎になるので、真摯に修学すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081307) 大学入門ゼミ E(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

教科書は利用しない。適宜、資料を配付する。

オフィスアワー 月曜日～金曜日の午前中ならだいたい研究室にいる。

研究室は南キャンパス2号館3階にある。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

このゼミでは、さまざまな課題のための教材として、英字週刊誌『Economist』を用いる予定である。この雑誌はイギリスで発行され、世界中で起こっている政治や経済、社会に関する時事問題を取り扱っている。英語は分かりやすく、高校レベルの文法で十分読むことができる。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081308) 大学入門ゼミ E(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 水野 敦洋	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布する。

オフィスアワー 金曜日2限目、水野敦洋研究室（南7号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席は厳禁とする。欠席・遅刻の場合には、必ず事前に連絡すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081309) 大学入門ゼミ E(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

授業内でプリント等を配布します。

オフィスアワー 月曜4校時 水野康一研究室（幸町南2号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学生活に求められる研究発表能力に加え、コミュニケーション能力を培うための授業です。受講生は授業への積極的な参加態度が求められます。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081310) 大学入門ゼミ E(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局: 大教センター DPコード: acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 森貞 誠	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

初回講義時に指示します

オフィスアワー 初回講義時に指示します

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回講義時に指示します

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081311) 大学入門ゼミ E(11) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

教科書はとくにありません。資料を配布します。

オフィスアワー 水曜日10:30-11:30

事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。

場所はアポイント時にお知らせします。

なお、質問は授業後に教室でも受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・大学生活で困ったことがあったら、気兼ねなく相談してくださいね。
- ・このクラスの授業計画は、初回の授業時に配布します。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081312) 大学入門ゼミ E(12) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			

*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。

*第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。

*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。

また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。

レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。

ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

必要に応じて配布する。

オフィスアワー 質問などは、金曜4校時に幸町南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

科目の性質上、成績評価は授業参加を重視する。毎回必ず出席すること。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081401) 大学入門ゼミ M(1) Startup Seminar on Academic Literacy 医療のなかの核酸 Applications of nucleic acid in medicine	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 栗原 亮介	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 レポートの書き方やプレゼンテーションの技法など、これからの学生生活で必要となる基本的なスキルの習得を目的としています。また生物にとって重要な物質である核酸について取り上げ、医療のなかで核酸がどのように利用されているのか考えていきます。さらに、自分で考える力、自分の意見を述べる力およびディスカッションする力などが身につくように、グループワークやプレゼンテーションを実施する予定です。			
授業の目的 大学生活で必要となる基本的な学習スキルを身につける。また、核酸を機能性材料として扱い、その利用方法について学び境界領域に触れることで、広い視野で物事を捉える力を養う。			
到達目標			
1. 核酸の基礎および境界領域について理解し、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. グループワークにおいて、自分で考え、自分の意見を述べ、ディスカッションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 協力しながらプレゼンテーション資料を作成し、自ら発表することができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 学習態度30%(特に到達目標1に対応)、グループワークへの参加度30%(特に到達目標2に対応)、プレゼンテーション40%(特に到達目標3に対応)。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 パワーポイントと配布資料を用いた対面授業を行います。またグループワークとプレゼンテーションを行います。第1回-9回は講義とグループワークを行い、第10回-14回はグループワークとプレゼンテーションを行います。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 レポートの書き方(1) 第3回 レポートの書き方(2) 第4回 情報整理の方法 第5回 日本語の技法(1) 第6回 日本語の技法(2) 第7回 プレゼンテーションの方法とグループ分け 第8回 核酸の基礎と応用(1) 第9回 核酸の基礎と応用(2) 第10回 プレゼンテーション:課題決定と資料の作成方法 第11回 プレゼンテーション:発表資料作成(1) 第12回 プレゼンテーション:発表資料作成(2) 第13回 プレゼンテーション:発表(1) 第14回 プレゼンテーション:発表(2)			

第15回 まとめ・予備日

【自学自習のためのアドバイスと注意事項】

第1回－9回は講義とグループワークを行いますので各回予習復習をすること。特にグループワークを円滑におこなうため、第4回で学ぶ「情報整理の方法」はしっかりと復習しておくこと。（準備学習2時間＋事後学習2時間）

第10回－14回はグループワークとプレゼンテーションを行いますので、発表資料の作成に必要なPCを持参すること。（準備学習2時間＋事後学習2時間）

PCの持参が難しい場合は事前に栗原までご連絡ください(学内サイト(Dream Campus)にメールアドレス記載)。

教科書・参考書等

資料を配布します。

オフィスアワー 水曜日、医学部講義棟2階206号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081402) 大学入門ゼミ M(2) Startup Seminar on Academic Literacy 生体における塩と水の機能 Salt and water metabolism for life	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 北田 研人, RAHMAN MD ASADUR	関連授業科目 薬理学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義やグループワークを通じて、大学生に必要な「自分で考える力」、「ディスカッションする力」、「文章を書くための基本的な技法」、「プレゼンテーションの基本的な技法」などのスキルを学んでもらいます。また、ヒトも含むあらゆる生物の生命維持の根幹である「塩と水の機能と役割」に関する知識や意義を共有してもらい、未来の医療への応用などについても取り上げていきます。			
授業の目的 塩と水というテーマを通して、大学生の学びに必要となるスキルを習得しつつ「自分で考えた意見を述べる」、「述べた意見を通してグループで議論する」などの力を習得する。			
到達目標			
1. 生命における塩と水の機能を理解し、説明することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
2. グループワークの中で、自分の考えを説明し、メンバーとディスカッションすることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
3. グループのメンバーと協力して資料を作成し、自ら発表することができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 学習態度50% (到達目標1, 2, 3に対応) 小レポートの提出20% (特に到達目標1に対応) プレゼンテーションの内容30% (特に到達目標3に対応) で評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<授業の方法> 講義 (パワーポイントによるプレゼン) とグループワーク+プレゼンテーションが中心のゼミとなります。第1～6回は講義、第7～12回は講義とグループワークを中心に、第12～14回はグループワークとプレゼンテーションを実施します。第15回は予備日となります。			
<授業計画> 第1回 自己紹介とオリエンテーション:creativityとは何か? 第2回 情報整理の方法とノートの取り方 第3回 日本語技法 第4回 プレゼンテーションの基本その1 第5回 プレゼンテーションの基本その2 (英語) 第6回 アイスブレイキングとグループ分け 第7回 生命にとっての塩と水 第8回 進化から考える塩と水:肺魚からヒトまで			

- 第 9回 癌に関する基礎知識 (英語)
- 第10回 塩と水と癌 (英語)
- 第11回 希少糖と癌 (英語)
- 第12回 プレゼンテーションの課題決定と発表資料の作成
- 第13回 発表資料の作成
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 総まとめ+予備日

この科目は基本的に対面授業を行います。が、状況によっては授業形態を一部、あるいは全て遠隔に変更する可能性があります。

< 自学自習のためのアドバイス >

第1～6回は各回1時間程度の事後学習を行うこと (各回1時間)。

第7～11回はグループワークや小レポートの課題が、第12～13回は発表資料作成があるので、必要な情報収集を事前・事後に行っておくこと (各回1時間)。

第14回は、事前にプレゼンテーションの準備・練習を行っておくこと (1時間)。

第15回は、各グループの発表の良かった点・悪かった点などを事前に考察しておくこと (1時間)。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布します。

オフィスアワー 水曜日14～17時まで。

医学部薬理学 北田研人・RAHMAN MD ASADUR

医学部基礎臨床研究棟7F 714

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

一部の講義は英語で行いますが、随時通訳も入れますので英語が苦手でも安心して参加ください。

小レポートやプレゼンテーションは日本語でも英語でもどちらでも構いません。

授業は毎回出席をとり、15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081403) 大学入門ゼミ M(3) Startup Seminar on Academic Literacy 医学研究における動物実験と動物倫理 Animal experiment and animal welfare in medical research	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 伊藤 日加瑠	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 本授業は、医学研究における動物実験の方法や動物福祉について学びながら、日本語技法やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法などの習得を目指します。また、グループワークを行い、動物実験に関するテーマで、ディスカッションやプレゼンテーションを実施してもらいます。				
授業の目的 本授業は、大学における学習に必要な基本スキルを養うことを目的としています。また、広い視点で生命科学や動物実験に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に取り組み、課題を発見できる能力を養います。グループワークにおいては、課題を考察し、自らの意見を分かりやすく他者に伝える能力の養成を目指します。				
到達目標				
(1) 動物実験に関する基礎的な知見を概括し、医学研究における動物実験を多面的な観点から説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 自らプレゼンテーションを行うことができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 レポートの提出20% (到達目標(1)に対応)、プレゼンテーション80% (特に到達目標(2)に対応) で評価します。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
[授業計画] 第1回:ゼミナールのオリエンテーション 第2回:実験動物学概論 第3回:レポートの書き方 第4回:情報整理の方法 第5回:日本語技法 第6回:プレゼンテーションの方法1 第7回:プレゼンテーションの方法2 第8回:基礎生物学 第9回:発生学・発生工学 第10回:医学研究における動物実験と動物倫理 第11回:プレゼンテーション①作成 第12回:プレゼンテーション①発表 第13回:プレゼンテーション②発表 第14回:プレゼンテーション③発表 第15回:プレゼンテーションのまとめ・予備日				
[授業の形態・方法] この科目は全回対面授業を行います。パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習				

が中心となります。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

[自学自習に関するアドバイス]

第2～10回：前回の授業に関する事柄を復習する。（9時間）

第11～14回：プレゼンテーションを作成し、発表の準備を行う。自身の発表を振り返り、良かった点や改善点を考える。他者の発表を比較して、考察する（6時間）。

第15回：全般についての総復習を行う。（1時間）

教科書・参考書等

各回に必要な資料を配布します。必要に応じて、参考図書・文献・web上の情報等を示します。

オフィスアワー オフィス:医学キャンパス動物実験施設1階

オフィスアワー:水曜日 第2講目（10:30-12:00）毎回の授業終了後に質問を受け付けます。質問はメールでも受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。欠席した際には、資料等を受取に来てください。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081404) 大学入門ゼミ M(4) Startup Seminar on Academic Literacy 生物学におけるアカデミックリテラシー Academic Literacy in Biology	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高橋 弘雄	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 本授業は、大学における学習に必要な基本スキルを養うことを目的としています。①情報整理の方法、②レポートの書き方、③日本語技法、④プレゼンテーションの方法などの、アカデミックリテラシーの習得を目指します。また、生命科学全般から、医学・生命科学研究に関わりをもつ内容を取り上げて、基本的な観点から概観します。グループワークを行い、生命に関わるテーマに関するプレゼンテーションを実施してもらいます。			
授業の目的 本授業は、アカデミックリテラシーの習得を目的とします。また、広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に取り組み、課題を発見できる能力を養います。グループワークにおいては、課題を考察し、自らの意見を分かりやすく他者に伝える能力の養成を目指します。			
到達目標			
(1) 生命科学および生命の多様性にかんする基礎的な知見を概括し、人間と生命の関係性を、多面的な観点から説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 自らプレゼンテーションを行うことができる。その際に、研究倫理に関する機変に則った方法をとることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポートや課題の提出30% (到達目標(1)に対応)、発表の内容30% (特に到達目標(3)に対応)、学習態度40%で評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画] 第1回:ゼミナールのオリエンテーション 第2回:情報整理の方法 第3回:レポートの書き方 第4回:日本語技法1 第5回:日本語技法2 第6回:プレゼンテーションの方法 第7回:生物の基礎・生物多様性 第8回:グループによるプレゼンテーション作成① 第9回:グループによるプレゼンテーション作成② 第10回:グループによるプレゼンテーション発表① 第11回:グループによるプレゼンテーション発表② 第12回:生物の基礎・生物多様性 第13回:個人によるプレゼンテーション発表① 第14回:個人によるプレゼンテーション発表② 第15回:まとめ・予備日			
[授業の形態・方法] この科目は全回対面授業を行います。パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習			

が中心となります。

[自学自習に関するアドバイス]

第1～7回：前回の授業に関する事柄を復習する(各1時間)。

第8～14回：グループ別の発表の準備を行う。自身のグループの発表を振り返り、良かった点や改善点を考える。他のグループの発表を比較して、考察する(各3時間)。

第15回：全般についての総復習を行う(2時間)。

教科書・参考書等

各回で必要な資料を配布します。必要に応じて、参考図書・文献・web上の情報等を示します。

オフィスアワー オフィス:医学キャンパス講義棟2階 分子神経生物学ゼミナール室

オフィスアワー:月～水 午後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。欠席した際には、資料等を受取に来てください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081405) 大学入門ゼミ M(5) Startup Seminar on Academic Literacy 日本語の技法と情報倫理 Presentation techniques and Information literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊, 辻 京子, 川田 紀美子	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 9回と演習90分 x 6回+ 自主学习(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 ①大学生・社会人としての責任感や協調性のある態度を教えます。 ②大学の授業を受けるために必要な技術や常識を教えます。 ③以上の内容を統合して、高校までの受動的学習から、大学での参加型・能動型学習への転換と導入について教えます。 具体的には情報の取り方、日本語やプレゼンテーションの技法、ネット接続の倫理・常識等で、これらの内容を学び、4年間の学習に活用できます。			
授業の目的 他の全学共通科目と協働して、新入生が大学での参加型・能動的学習へのスムーズな移行を支援すると共に、学生の課題探求能力を高めることを目標にしている。将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につける。 ネットワーク利用の常識を学修し、大学で学ぶために利用できるようになる。			
到達目標			
1. パワーポイントを用いて学習内容を発表できる。 2. インターネットに安全に接続できる。 (これらは共通スタンダードの a「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 医療人としての常識を身につける。 (共通スタンダードの c「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 講義時に提出するレポート30% (到達目標1, 2, 3に対応)、Moodleビデオ視聴内容の小テスト10% (到達目標2 に対応)、パワーポイントでの発表及びディスカッション60% (到達目標1, 3に対応) を評価して成績をつけます。 期末試験は行いません。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション (講義) 第2回 医療現場における会話技術 (講義) 第3回 プレゼンテーション (講義) 第4回 日本語の技法1 (講義) 第5回 日本語の技法2 (講義) 第6回 難病の公的支援と社会保障制度1 (講義) 第7回 難病の公的支援と社会保障制度2 (講義) 第8回 情報整理の方法 (講義) 第9回 インターネット使用の常識 (演習) 第10回 ディスカッション課題の基礎知識 (講義) 第11回 ディスカッション課題の準備 (演習) 第12回 学習成果の発表1 (演習) 第13回 学習成果の発表2 (演習)			

第14回 ディスカッション1 (演習)
第15回 ディスカッション2 (演習)

この科目は、基本的に対面授業を行いますが、一部の授業回ではMoodleビデオ視聴による事前学習を要します。なお新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、オンデマンド講義に変更しますが、その場合には医学部授業収録システムを用います。

医学部の学生のみが履修する科目なので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。事前学習課題が出るので、その内容やレポートの締め切りを、必ずWebClassで確認してください。講義により、レポート提出の方法が異なります。

自学自習のためのアドバイス

第2-8回、10回 WebClassに課題が示されますので、それに従い各回、予習2時間、復習2時間を目安に自学自習してください。

第9回 指定したMoodle ビデオを事前に視聴し、内容を理解しておいてください。予習6時間、復習2時間が目安です。講義時間中にWebClassを使って、予習した内容の理解度をテストします。

第12-15回 グループ毎に、パワーポイントを使って発表をします。グループ学習を行い、準備をしてください。第14回と15回は、ディベートを行います。与えられたテーマについて、賛成、反対の両方の立場で発表できるように、発表用ファイルを作ってください。いずれかの立場の発表後、討論をします。予習に各回4時間程度を目安にしてください。

教科書・参考書等

特にありません。

オフィスアワー 新型コロナウイルス感染症の流行により、キャンパス内への立ち入りが禁止になる場合があります。

質問は、WebClassに指定したメールアドレスに送る形で受け付けます。

対面での回答が必要な場合は、メールでアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

医学部学生のみを対象としているので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。新型コロナウイルスの流行状況によっては、演習の内容が変わる場合があります。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081406) 大学入門ゼミ M(6) Startup Seminar on Academic Literacy 双方向学習のスキルアップ Trying to mutually improve the learning skills	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 渡邊 久美, 松本 啓子	関連授業科目 学習の基本に関する授業科目		
	履修推奨科目 人間理解に関連する授業科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (受講時に提示する課題へのレポート提出、事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 大学で学ぶために必要な基本的な学習態度と方法、すなわち話し言葉と記述言語の使い方、ノートのとおり方、レポートの書き方、コミュニケーション、プレゼンテーション技法などについて、講義と演習および自学自習を通して学び、自尊自立した大学生の基礎を涵養する。			
授業の目的 1. 大学生の倫理的態度と履修上のマナーを修得する。 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを修得する。 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを修得する。			
到達目標			
到達目標 1. 授業に出席する学生のマナーを理解し、医療者に必要な倫理的態度を習得できる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理」に対応) 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを操作できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを実施できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 評価資料 1. 学習態度 20% (主に到達目標1に対応) 2. 参加度 30% (主に到達目標3に対応) 3. 成果物(試験と同等に扱う) 50% (主に到達目標2に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は「講義」と「演習」で構成されています。 少人数でのグループワークも取り入れます。演習での成果物は、評価対象となります。 実施形態(対面/遠隔)は状況に応じて、web class を通じて事前に連絡しますが、遠隔の場合はZoomを使ったリアルタイムでのグループワークも取り入れます。オンラインでのグループワークの進め方も慣れていってください。			
第1週 ガイダンス、アイスブレイキング(渡邊) (Zoomミーティング担当: 蔵本) 第2週 情報の整理①ノートの取り方について(渡邊) 第3週 情報の整理②ルブリック・ポートフォリオについて(渡邊) 第4週 レポートの書き方①21世紀社会のストレス問題の課題探求(1)(渡邊) 第5週 レポートの書き方②21世紀社会のストレス問題の課題探求(2)(渡邊) 第6週 日本語技法①日本語の話し言葉・書き言葉、電子メールの新リテラシー(松本) 第7週 日本語技法②日本語の敬語、連絡・相談・報告の日本語(松本) 第8週 日本語技法③エビデンスと推敲の技法(松本) 第9週 日本語技法④アサーティブなディベート手法(松本)			

- 第10週 日本語技法⑤ディベートの体験と評価 (松本)
- 第11週 プレゼンテーション技法①討議法 (市原)
- 第12週 プレゼンテーション技法②セルフチェック (市原)
- 第13週 プレゼンテーション技法③プレゼンテーションスキル (市原)
- 第14週 プレゼンテーション技法④グループで課題に取り組む (市原)
- 第15回 プレゼンテーション技法⑤課題報告、プレゼンテーションの体験と評価 (市原)

【自学自習に関するアドバイス】 (各教員ごとに、事前学習10時間と事後学習10時間)

- 第1週 遅刻しないで授業に参加し、今後の授業の参加態度を確認する。
状況に応じた香川大学の自己紹介を検討する。
- 第2週 情報とは何かを考える。大学での学習課題を、いくつかの要素に分けて考える。
医療系学生として望ましい生活態度について検討し、セルフアセスメントを行う。
- 第3週 いくつかの現代的課題に関する提示テーマから選択して、素材を集める。
理想的な学習姿勢、態度を段階評価してみる。
- 第4週 意見交換を踏まえ、自分の生活体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。
課題に応じた文献の検索と引用を正しく行う。
- 第5週 相互評価により、レポート評価のルーブリックを作成してみる。
各自が作成した視点を統合して、グループ毎にまとめたものについて、全体発表を行う。
- 第6週 日本語の話し言葉、書き言葉、メールリテラシーを演習を通して理解する。
- 第7週 日本語と文化的背景、国際社会の中における日本人の言葉リテラシーを考える。
- 第8週 意見交換を踏まえ、自分の体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。
- 第9週 ディベートの体験に向けて、アサーティブな会話について意見をレポートにまとめる。
- 第10週 グループで相互に意見交換を通して、全体評価を行う。
- 第11週 いろんな話し合いの技法を演習を通して理解する。
- 第12週 自分のプレゼンテーション動画から振り返る。
- 第13週 プレゼンテーションスキルを理解する。
- 第14週 グループごとに課題に取り組むため、欠席しない
- 第15週 グループごとにプレゼンテーションを実施したのちピア評価を行う。

教科書・参考書等

各講義で必要な資料は配付する。

オフィスアワー 授業日、授業終了後、18:30まで。

1から5回担当 医学部精神看護学 渡邊 久美 (教授) 医学部看護学教育研究棟
616室 電話 087-891-2245

6から10回担当 医学部在宅看護学 松本 啓子 (教授) 医学部看護学教育研究棟
619室 電話 087-891-2346

11から15回担当 急性期成人看護学 市原多香子 (教授) 医学部看護学教育研究棟
319室 電話 087-891-2237

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入門ゼミは、8:50から始業です。三木町キャンパスは駐車場が朝から混雑します。対面授業の場合は、時間に余裕をもって、遅刻しないようご注意ください。遠隔授業の場合も、基本的にはリアルタイムで行う予定ですので、事前にネット環境の準備をお願いします。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081407) 大学入門ゼミ M(7) Startup Seminar on Academic Literacy 医療における心理学 Psychology in the medical	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子, 野口 修司	関連授業科目 履修推奨科目 心理学		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、大学生活で必要不可欠な基礎的学習スキルの獲得を目指します。また、心理学の基礎的概念を理解しつつ、医療分野における心理学の意義についてみなさんとともに考えていきます。			
授業の目的 大学生活を円滑に始められるようにするため、レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルなどの基礎的学習スキルを身に付けます。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨きます。			
到達目標			
1. 学術文献等を収集し、その要点をまとめて発表資料を作ることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. プレゼンテーションソフト等を用いて研究倫理を踏まえた発表をすることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 心理学の基礎的概念について説明することができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 他の聴講生や教員と積極的にコミュニケーションをとることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 受講態度 20% (特に到達目標4に対応), レポート 40% (特に到達目標1, 3に対応), 発表 40% (特に到達目標1, 2に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション:自己紹介等 第2回 日本語表現および手紙・電子メールの書き方 第3回 情報収集の方法とまとめ方(図書館の使い方・インターネットでの情報収集) 第4回 レポートの書き方:レポートの形式と特徴の理解 第5回 レポート「心理学とは」1:レポートの作成 第6回 レポート「心理学とは」2:レポートの校正 第7回 社会で役立つコミュニケーション・スキル 第8回 医学部生が知っておくべき「守秘義務」と「研究倫理」 第9回 プレゼンテーションの技法およびソフトの使い方 第10回 プレゼンテーション「医療における心理学」1:プレゼンテーションの課題説明およびグループ分け 第11回 プレゼンテーション「医療における心理学」2:プレゼンテーションの構成の検討 第12回 プレゼンテーション「医療における心理学」3:プレゼンテーション資料の作成 第13回 プレゼンテーション「医療における心理学」4:プレゼンテーション資料の校正 第14回 プレゼンテーション「医療における心理学」5:発表 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義および演習形式です。前半8回は講義を中心に進めますが、適宜グループワークを取り入			

れます。後半7回ではグループによるプレゼンテーション課題が主となり、発表に向けて段階的に準備を進めていきます。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第5, 6回 心理学の領域や歴史などを各自が調べて、レポートにまとめてください。なお、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(20時間)

第11-14回 プレゼンテーションの準備をグループ内で円滑に進めるため、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(40時間)

教科書・参考書等

Moodleより、適宜資料を配布します。

オフィスアワー 川人：三木キャンパス講義棟3階 木曜12-13時

野口：三木キャンパス講義棟3階 水曜3時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出欠をとります。15分以上遅刻は欠席とみなします。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081501) 大学入門ゼミ T(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 竹内 謙善, 南 政宏	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。 ※到達目標 1.～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。 (1) 到達目標 3., 4. にて直接手的に学習, その他で課す課題にて実践することで、「日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができる。」 (2) 到達目標 6., 7. に該当する第9週～第14週に課す課題の題材により、「21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」			
成績評価の方法と基準 毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報を整理する ～ノートテキングの勘所～(コース) 第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～(コース) 第7週 履修方法を深く理解する(コース) 第8週 情報倫理を考える(コース)			

第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (1) (コース)
第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (2) (コース)
第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (3) (コース)
第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (4) (コース)
第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (5) (コース)
第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (6) (コース)
第15週 大学入門ゼミのまとめ (コース)

※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS (香川大学Moodle) におけるアナウンスに注意すること。

※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2、3名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。

※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS (香川大学Moodle) の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜日1～2時限目

場所：

幸町北キャンパス北5号館5階515 (竹内)

幸町北キャンパス研究交流棟4階413 (南)

不在時は電子メールで対応：

takeuchi.kenzen.u8@kagawa-u.ac.jp (竹内)

minami.masahiro@kagawa-u.ac.jp (南)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081502) 大学入門ゼミ T(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 南 政宏, 竹内 謙善	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。 ※到達目標 1.～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。 (1) 到達目標 3., 4. にて直接手的に学習, その他で課す課題にて実践することで、「日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができる。」 (2) 到達目標 6., 7. に該当する第9週～第14週に課す課題の題材により、「21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」			
成績評価の方法と基準 毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報を整理する ～ノートテキングの勘所～(コース) 第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～(コース) 第7週 履修方法を深く理解する(コース) 第8週 情報倫理を考える(コース)			

第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (1) (コース)
第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (2) (コース)
第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (3) (コース)
第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (4) (コース)
第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (5) (コース)
第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (6) (コース)
第15週 大学入門ゼミのまとめ (コース)

※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS (香川大学Moodle) におけるアナウンスに注意すること。

※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2、3名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。

※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS (香川大学Moodle) の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜日1～2時限目

場所：

幸町北キャンパス北5号館5階515 (竹内)

幸町北キャンパス研究交流棟4階413 (南)

不在時は電子メールで対応：

takeuchi.kenzen.u8@kagawa-u.ac.jp (竹内)

minami.masahiro@kagawa-u.ac.jp (南)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081503) 大学入門ゼミ T(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山本 高広, 鈴木 達也, 石塚 正秀	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業は、はじめに、キャンパスライフの基本について身に着けるとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得することを目的としています。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを取り入れる予定です。			
授業の目的 「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。 レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。			

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス（授業の目的・計画）
- 第2週 被害者や加害者にならないための心構え（学部共通）
- 第3週 キャンパスライフの心得（学部共通）
- 第4週 図書館を上手に利用する（学部共通）
- 第5週 本コースで学ぶこと（コース：新入生研修）
- 第6週 主体性と協調性を養う（コース：新入生研修）
- 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方（コース）
- 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術（コース）
- 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか（コース）
- 第10週 グループワーク1（クラス別）
- 第11週 グループワーク2（クラス別）
- 第12週 グループワーク3（クラス別）
- 第13週 グループワーク4（クラス別）
- 第14週 グループワーク成果発表、意見交換（クラス別）
- 第15週 まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修（建築・都市環境コース）が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第2から4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。（12時間）
- 第5から9週 授業時に提示されたレポートを作成する。（20時間）
- 第10から13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。（20時間）
- 第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。（4時間）
- 第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。（4時間）

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス（2017）
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣（2017）
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店（2020）
- ・ファシリテーションとは何か―コミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版（2021）
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社（2019）
- ・もじれる社会：戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房（2014）
- ・やってみよう！ 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版（2022）

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

石塚 正秀：創造工学部2号棟5階（南）、ishizuka.masahide@kagawa-u.ac.jp

鈴木 達也：創造工学部2号棟5階（南）、suzuki.tatsuya@kagawa-u.ac.jp

山本 高広：創造工学部2号棟3階（南）、yamamoto.takahiro@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081504) 大学入門ゼミ T(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～				
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし				
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2					
担当教員名 鈴木 達也, 山本 高広, 石塚 正秀	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)						
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)							
授業の概要 <p>この授業は、はじめに、キャンパスライフの基本について身に着けるとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得することを目的としています。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを取り入れる予定です。</p>							
授業の目的 <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 							
成績評価の方法と基準 <p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。</p> <p>レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>							
成績評価の基準 <p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">合格又は了</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </table>				合格又は了	到達目標を達成している。	不合格	到達目標を達成していない。
合格又は了	到達目標を達成している。						
不合格	到達目標を達成していない。						
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス							
【授業の方法】 <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p>							

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス（授業の目的・計画）
第2週 被害者や加害者にならないための心構え（学部共通）
第3週 キャンパスライフの心得（学部共通）
第4週 図書館を上手に利用する（学部共通）
第5週 本コースで学ぶこと（コース：新入生研修）
第6週 主体性と協調性を養う（コース：新入生研修）
第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方（コース）
第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術（コース）
第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか（コース）
第10週 グループワーク1（クラス別）
第11週 グループワーク2（クラス別）
第12週 グループワーク3（クラス別）
第13週 グループワーク4（クラス別）
第14週 グループワーク成果発表、意見交換（クラス別）
第15週 まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修（建築・都市環境コース）が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第2から4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。（12時間）
第5から9週 授業時に提示されたレポートを作成する。（20時間）
第10から13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。（20時間）
第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。（4時間）
第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。（4時間）

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス（2017）
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣（2017）
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店（2020）
- ・ファシリテーションとは何か—コミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版（2021）
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社（2019）
- ・もじれる社会：戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房（2014）
- ・やってみよう！ 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版（2022）

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

石塚 正秀：創造工学部2号棟5階（南）、ishizuka.masahide@kagawa-u.ac.jp

鈴木 達也：創造工学部2号棟5階（南）、suzuki.tatsuya@kagawa-u.ac.jp

山本 高広：創造工学部2号棟3階（南）、yamamoto.takahiro@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081505) 大学入門ゼミ T(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 石塚 正秀, 山本 高広, 鈴木 達也	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 <p>この授業は、はじめに、キャンパスライフの基本について身に着けるとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得することを目的としています。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを取り入れる予定です。</p>			
授業の目的 <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 <p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。 レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>			
成績評価の基準 <p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。</p>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p>			

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス（授業の目的・計画）
第2週 被害者や加害者にならないための心構え（学部共通）
第3週 キャンパスライフの心得（学部共通）
第4週 図書館を上手に利用する（学部共通）
第5週 本コースで学ぶこと（コース：新入生研修）
第6週 主体性と協調性を養う（コース：新入生研修）
第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方（コース）
第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術（コース）
第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか（コース）
第10週 グループワーク1（クラス別）
第11週 グループワーク2（クラス別）
第12週 グループワーク3（クラス別）
第13週 グループワーク4（クラス別）
第14週 グループワーク成果発表、意見交換（クラス別）
第15週 まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修（建築・都市環境コース）が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第2から4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。（12時間）
第5から9週 授業時に提示されたレポートを作成する。（20時間）
第10から13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。（20時間）
第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。（4時間）
第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。（4時間）

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス（2017）
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣（2017）
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店（2020）
- ・ファシリテーションとは何か—コミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版（2021）
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社（2019）
- ・もじれる社会：戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房（2014）
- ・やってみよう！ 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版（2022）

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

石塚 正秀：創造工学部2号棟5階（南）、ishizuka.masahide@kagawa-u.ac.jp

鈴木 達也：創造工学部2号棟5階（南）、suzuki.tatsuya@kagawa-u.ac.jp

山本 高広：創造工学部2号棟3階（南）、yamamoto.takahiro@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081506) 大学入門ゼミ T(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (防災・危機管理コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 野々村 敦子	関連授業科目 情報リテラシー			
	履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識など、大学において必要とされる基本的な知識や技術について講義と実習を通して提示する。講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式をとる。				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎的な知識や技術を学習する。実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 7. 現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、7は「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は、全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創理工学部共通コンテンツ(学部全体で授業)を中心に授業を行う。後半は、課題探求授業としてプレゼンテーションやレポート作成の練習を行う。この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。				
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 図書館を上手に利用する(全体) 第03週 理系の基礎知識を用いた交通捜査(全体) 第04週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第05週 キャンパスライフの心得(全体) 第06週 アイスブレイキングと自己紹介、コースで学ぶこと(コース) 第07週 情報整理の方法(コース) 第08週 日本語技法その1(コース) 第09週 日本語技法その2(コース)				

- 第10週 レポートの書き方 (コース)
第11週 プレゼンテーションの方法 (コース)
第12週 グループワーク (グループ)
第13週 グループワーク (グループ)
第14週 プレゼンテーション実践 (グループ)
第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わることがある。その都度、学内掲示等するので注意すること。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(3時間)
第02～05週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)
第06～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(18時間)
第12～13週 課題に関する資料を作成する。(14時間)
第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間)
第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)

教科書・参考書等

テーマごとに授業資料を提供する。

オフィスアワー 前期・水曜日 12:20-12:50、林町キャンパス2号館5階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認します。積極的に自主的に行動するように習慣づけてください。相談事項があれば、適宜Eメールなどで受け付けます。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081507) 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 安藤 一秋, 高木 智彦	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価する。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成について練習する。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体)			

第04週 図書館を上手に利用する（全体）
第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと（コース）
第06週 情報整理の方法（コース）
第07週 日本語技法その1（コース）
第08週 日本語技法その2（コース）
第09週 レポートの書き方（コース）
第10週 eメールの書き方・実践（コース）
第11週 プレゼンテーションの方法（コース）
第12週 グループワーク（グループ）
第13週 グループワーク（グループ）
第14週 プレゼンテーション実践（グループ）
第15週 まとめ（コース）
※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。

【自学自習に関するアドバイス】

第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(4時間)
第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)
第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(28時間)
第12～13週 課題に関する資料を作成する。(8時間)
第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(4時間)
第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(4時間)

【その他】

この科目は全回対面授業で実施する。
なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

教科書・参考書等

テーマごとにプリント等を配布する。

オフィスアワー 水曜日12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階（北）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081508) 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高木 智彦, 安藤 一秋	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価する。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成について練習する。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体)			

第04週 図書館を上手に利用する（全体）
第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと（コース）
第06週 情報整理の方法（コース）
第07週 日本語技法その1（コース）
第08週 日本語技法その2（コース）
第09週 レポートの書き方（コース）
第10週 eメールの書き方・実践（コース）
第11週 プレゼンテーションの方法（コース）
第12週 グループワーク（グループ）
第13週 グループワーク（グループ）
第14週 プレゼンテーション実践（グループ）
第15週 まとめ（コース）
※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。

【自学自習に関するアドバイス】

第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(4時間)
第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)
第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(28時間)
第12～13週 課題に関する資料を作成する。(8時間)
第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(4時間)
第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(4時間)

【その他】

この科目は全回対面授業で実施する。
なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

教科書・参考書等

テーマごとにプリント等を配布する。

オフィスアワー 水曜日18:00～19:00、林町キャンパス1号館10階（南）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081509) 大学入門ゼミ T(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (人工知能・通信ネットワークコース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 丸 浩一, 武田 健太郎	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース)			

- 第7週 日本語技法その1 (コース)
- 第8週 日本語技法その2 (コース)
- 第9週 レポートの書き方 (コース)
- 第10週 eメールの書き方・実践 (コース)
- 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース)
- 第12週 グループワーク (グループ)
- 第13週 グループワーク (グループ)
- 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ)
- 第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(5時間)
- 第2-4週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)
- 第5-11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(21時間)
- 第12-13週 課題に関する資料を作成する。(12時間)
- 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間)
- 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時までに連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 丸 水曜日12:00-13:00、創造工学部1号館7階 研究室

武田 水曜日13:00-14:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

人工知能・通信ネットワークコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081510) 大学入門ゼミ T(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (人工知能・通信ネットワークコース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 武田 健太郎, 丸 浩一	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース)			

- 第7週 日本語技法その1 (コース)
- 第8週 日本語技法その2 (コース)
- 第9週 レポートの書き方 (コース)
- 第10週 eメールの書き方・実践 (コース)
- 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース)
- 第12週 グループワーク (グループ)
- 第13週 グループワーク (グループ)
- 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ)
- 第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(5時間)
- 第2-4週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)
- 第5-11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(21時間)
- 第12-13週 課題に関する資料を作成する。(12時間)
- 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間)
- 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時までに連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 武田 水曜日13:00-14:00、創造工学部1号館7階 研究室
丸 水曜日12:00-13:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

人工知能・通信ネットワークコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081511) 大学入門ゼミ T(11) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 奥村 幸彦, 林 純一郎, 堤 成可	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース)			

- 第7週 日本語技法その1 (コース)
- 第8週 日本語技法その2 (コース)
- 第9週 プレゼンテーションの方法 (コース)
- 第10週 グループワーク実習 (コース)
- 第11週 グループワーク実習 (コース)
- 第12週 グループワーク実習 (コース)
- 第13週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第14週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第15週 まとめ (学科)

(※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
- 第5～6週 各自のノートを整理する。
- 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する。
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日16:00～17:00(創造工学部1号館3階1309室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081512) 大学入門ゼミ T(12) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 林 純一郎, 奥村 幸彦, 堤 成可	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース)			

- 第7週 日本語技法その1 (コース)
- 第8週 日本語技法その2 (コース)
- 第9週 プレゼンテーションの方法 (コース)
- 第10週 グループワーク実習 (コース)
- 第11週 グループワーク実習 (コース)
- 第12週 グループワーク実習 (コース)
- 第13週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第14週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第15週 まとめ (学科)

(※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(5時間)
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。(10時間)
- 第5～6週 各自のノートを整理する。(5時間)
- 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(15時間)
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する。(15時間)
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(10時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00(創造工学部1号館4階1419室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081513) 大学入門ゼミ T(13) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 堤 成可, 奥村 幸彦, 林 純一郎	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース)			

- 第7週 日本語技法その1 (コース)
- 第8週 日本語技法その2 (コース)
- 第9週 プレゼンテーションの方法 (コース)
- 第10週 グループワーク実習 (コース)
- 第11週 グループワーク実習 (コース)
- 第12週 グループワーク実習 (コース)
- 第13週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第14週 プレゼンテーション実践 (コース)
- 第15週 まとめ (学科)

(※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(5時間)
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。(10時間)
- 第5～6週 各自のノートを整理する。(5時間)
- 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(15時間)
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する。(15時間)
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(10時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日12:15～12:45 林町キャンパス1号館4階 1405室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081514) 大学入門ゼミ T(14) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 楠瀬 尚史, 松田 伸也, 平野 満大	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】			

本講義は全回対面で実施します。なお状況によっては、一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります。その場合は学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、こまめに確認すること。

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎)
- 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体)
- 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体)
- 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体)
- 第5週 情報整理の方法(コース毎)
- 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎)
- 第7週 日本語技法その1(コース毎)
- 第8週 日本語技法その2(コース毎)
- 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)
- 第10週 グループワーク実習(グループ)
- 第11週 グループワーク実習(グループ)
- 第12週 グループワーク実習(グループ)
- 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、確認を怠らないこと。

【自主学習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）
- 第2～4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）
- 第5～6週 各自のノートを整理する（10時間）
- 第7～9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 楠瀬:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

松田:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

平野:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通し、積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081515) 大学入門ゼミ T(15) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 松田 伸也, 楠瀬 尚史, 平野 満大	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】			

本講義は全回対面で実施します。なお状況によっては、一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります。その場合は学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、こまめに確認すること。

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎)
- 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体)
- 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体)
- 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体)
- 第5週 情報整理の方法(コース毎)
- 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎)
- 第7週 日本語技法その1(コース毎)
- 第8週 日本語技法その2(コース毎)
- 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)
- 第10週 グループワーク実習(グループ)
- 第11週 グループワーク実習(グループ)
- 第12週 グループワーク実習(グループ)
- 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、確認を怠らないこと。

【自主学習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）
- 第2～4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）
- 第5～6週 各自のノートを整理する（10時間）
- 第7～9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 楠瀬:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

松田:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

平野:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通し、積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081516) 大学入門ゼミ T(16) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局: 大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 平野 満大, 楠瀬 尚史, 松田 伸也	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】			

本講義は全回対面で実施します。なお状況によっては、一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります。その場合は学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、こまめに確認すること。

【授業計画】

- 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎)
- 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体)
- 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体)
- 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体)
- 第5週 情報整理の方法(コース毎)
- 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎)
- 第7週 日本語技法その1(コース毎)
- 第8週 日本語技法その2(コース毎)
- 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)
- 第10週 グループワーク実習(グループ)
- 第11週 グループワーク実習(グループ)
- 第12週 グループワーク実習(グループ)
- 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
- 第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、確認を怠らないこと。

【自主学習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）
- 第2～4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）
- 第5～6週 各自のノートを整理する（10時間）
- 第7～9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 楠瀬:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

松田:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館8階教授室)

平野:水曜 18時～19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通し、積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081601) 大学入門ゼミ A(1) Startup Seminar on Academic Literacy 持続可能な農業を考える (A)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 豊田 正範	関連授業科目 農学入門 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 近年、食糧自給率の低下や世界的な食糧不足、地球温暖化の進行などの状況下で、今日のニーズを満たしながら、明日のニーズを犠牲にしない農業の発展は、非常に重要な課題となっている。本講義の前半では、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーション技法」などを学習する。後半では、「持続可能な農業」に関するテーマを各自設定し、これまでの農作物の供給状況について調べるとともに、今後の農業について環境、社会、農業生産者の側面から考える。前半で学んだ技術を活用して、各自プレゼンを準備し発表する。			
授業の目的 前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修する。後半では、「持続可能な農業」に関する課題を題材にして各自がまとめ、プレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に付けることを目的とする。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集して整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション技法) 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 農作物の安定供給について現状と課題を認識し、それらを適切に説明できる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力)			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢と発表内容(特に到達目標1,2,3に対応)、討論での積極的な発言(特に到達目標4に対応)を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで、「持続可能な農業」に関して興味のある項目を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、選んだ項目についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。なお、進捗状況によって計画を変更することがある。 [授業計画] 第1回 ガイダンス、課題説明、アンケート 第2回 課題決定、グループ分け、発表方法紹介 第3回 学部共通コンテンツー情報整理1 第4回 学部共通コンテンツー情報整理2 第5回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方1 第6回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方2、農学部分館利用案内 第7回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法1 第8回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法2 第9回 アドバイザーミーティング (第3回から第9回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第10回 受講者による発表と討論1			

第11回 受講者による発表と討論2

第12回 受講者による発表と討論3

第13回 まとめ

(合宿で2回分の授業を行う)

【自学学習に関するアドバイス】

第1回、2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間)

第3回-9回 大学で身につけるべきことを学習するための準備および課題に取り組む。(20時間)

第10回-13回 課題を見つけ出し、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備および事後学習を行う。(30時間)

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行う。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後30分程度とする。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081602) 大学入門ゼミ A(2) Startup Seminar on Academic Literacy 持続可能な農業を考える (B)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 福留 光孝	関連授業科目 基礎生物化学、植物栄養学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 近年、食糧自給率の低下や世界的な食糧不足、地球温暖化の進行などの状況下で、今日のニーズを満たしながら、明日のニーズを犠牲にしない農業の発展は、非常に重要な課題となっている。本講義の前半では、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーション技法」などを学習する。後半では、「持続可能な農業」に関するテーマを各自設定し、これまでの農作物の供給状況について調べるとともに、今後の農業について環境、社会、農業生産者の側面から考える。前半で学んだ技術を活用して、各自プレゼンを準備し発表する。			
授業の目的 前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修する。後半では、「持続可能な農業」に関する課題を題材にして各自がまとめ、プレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に付けることを目的とする。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集して整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション技法) 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 農作物の安定供給について現状と課題を認識し、それらを適切に説明できる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力)			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢と発表内容(特に到達目標1,2,3に対応)、討論での積極的な発言(特に到達目標4に対応)を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで、「持続可能な農業」に関して興味のある項目を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、選んだ項目についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。なお、進捗状況によって計画を変更することがある。			
[授業計画] 第1回 ガイダンス、課題説明、アンケート 第2回 課題決定、グループ分け、発表方法紹介 第3回 学部共通コンテンツー情報整理1 第4回 学部共通コンテンツー情報整理2 第5回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方1 第6回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方2、農学部分館利用案内 第7回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法1 第8回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法2 第9回 アドバイザーミーティング (第3回から第9回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合によ			

り、内容が前後することがある。)

第10回 受講者による発表と討論1

第11回 受講者による発表と討論2

第12回 受講者による発表と討論3

第13回 まとめ

(合宿で2回分の授業を行う)

【自学学習に関するアドバイス】

第1回、2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間)

第3回-9回 大学で身につけるべきことを学習するための準備および課題に取り組む。(20時間)

第10回-13回 課題を見つけ出し、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備および事後学習を行う。(30時間)

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行う。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後30分程度とする。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081603) 大学入門ゼミ A(3) Startup Seminar on Academic Literacy 異分野融合の場としての農学部 (A)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士: 入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 一見 和彦, 松沢 智彦	関連授業科目 環境科学、海洋科学、生物化学、微生物学、応用微生物学			
	履修推奨科目 海洋科学、生物化学、微生物学			
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 本授業の前半では、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方」、「研究倫理」、「情報整理法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」など、大学における勉学や研究において必要なスキル・倫理を解説する。後半では、農学部の多面性と異分野融合について理解し、幅広い知識を体得することを目的として、受講者による文献調査やプレゼンテーションを実施する。				
授業の目的 大学では受動的な学習に加えて、能動的な学習（例えば、文献調査やそのレポート作成、プレゼンテーション、研究など）が必須である。本授業の前半では、この能動的な学習に必要なスキルを身につける。香川大学農学部には5つのコースがあり、分子レベルから生態系レベルまで、多岐にわたる講義や研究が行われている。これらの学問分野は完全に独立して存在しているのではなく、多くの接点が存在している。21世紀社会の諸課題を解決するためには、異分野の融合が重要であり、また、異分野の融合のためには各分野の専門的な知識に加えて、他分野を理解するための幅広く体系的な知識が必要である。本授業の後半では、農学部における研究や異分野融合について講義を行った後、グループ毎に興味を持った内容について調査し、その内容を発表・討論してもらう。これにより、本授業の前半で学んだスキルの実践と体系的な知識修得の重要性の理解を目指す。				
到達目標				
(1) 自らの課題を主体的に分析し、その関連資料を探索・理解することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮しつつ、集めた資料・情報等を他者に提示することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 発表およびその質疑応答において、論理的思考とその表現をすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 発表内容 (50%、到達目標 1, 2 に該当) と授業への取り組み姿勢 (50%、到達目標 1, 3 に該当) を総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 授業は2名の教員 (一见教員・松沢教員) で実施する。受講者は、設定された課題に関する情報および資料を収集し、他の受講者にも理解できるように整理する。その内容を本講義内においてプレゼンテーションによって発表し、討論する。発表にはMicrosoft社PowerPointを使用する。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。				
【授業計画】 第1回 ガイダンス、グループ分け、課題に関する講義など 第2回 課題の説明、取り組み方・発表方法についての説明 第3回 全学共通コンテンツ?1 情報整理の方法 第4回 全学共通コンテンツ?2 日本語技法1 第5回 全学共通コンテンツ?3 日本語技法2				

- 第6回 全学共通コンテンツ?4 レポートの書き方1、農学部分館訪問
第7回 全学共通コンテンツ?5 レポートの書き方2
第8回 全学共通コンテンツ?6 プレゼンテーションの方法
第9回 アドバイザーミーティング
第10回 発表準備1
第11回 発表準備2
第12回 グループによる発表1
第13回 グループによる発表2

上記の計画とは別に、新入生研修に相当する2回分の授業が実施される。

【自学学習に関するアドバイス】

配布するテキスト等を用いて予習・復習し、日常生活や他の講義において実践してみる。また、各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行う。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、課題に関連する文献調査のために積極的に図書館の蔵書を利用すること。
また、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 講義の終了後をオフィスアワーとする。また、質問や相談は随時受け付ける（農学部BW405）が、事前にメールで連絡すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、出席をとる。15分以上の遅刻は欠席として扱う。
原則として、第2回以降はノートパソコンを毎回持参すること。

教員の実務経験との関連

国立の研究所・大学において研究開発および教育に携わってきた実務経験をもとに、本授業を行う。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081604) 大学入門ゼミ A(4) Startup Seminar on Academic Literacy 異分野融合の場としての農学部 (B班) Interdisciplinary Fusions in Faculty of Agriculture	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 松沢 智彦, 一見 和彦	関連授業科目 環境科学、海洋科学、生物化学、微生物学、応用微生物学			
	履修推奨科目 海洋科学、生物化学、微生物学			
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 本授業の前半では、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方」、「研究倫理」、「情報整理法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」など、大学における勉学や研究において必要なスキル・倫理を解説する。後半では、農学部の多面性と異分野融合について理解し、幅広い知識を体得することを目的として、受講者による文献調査やプレゼンテーションを実施する。				
授業の目的 大学では受動的な学習に加えて、能動的な学習（例えば、文献調査やそのレポート作成、プレゼンテーション、研究など）が必須である。本授業の前半では、この能動的な学習に必要なスキルを身につける。香川大学農学部には5つのコースがあり、分子レベルから生態系レベルまで、多岐にわたる講義や研究が行われている。これらの学問分野は完全に独立して存在しているのではなく、多くの接点が存在している。21世紀社会の諸課題を解決するためには、異分野の融合が重要であり、また、異分野の融合のためには各分野の専門的な知識に加えて、他分野を理解するための幅広く体系的な知識が必要である。本授業の後半では、農学部における研究や異分野融合について講義を行った後、グループ毎に興味を持った内容について調査し、その内容を発表・討論してもらう。これにより、本授業の前半で学んだスキルの実践と体系的な知識修得の重要性の理解を目指す。				
到達目標				
(1) 自らの課題を主体的に分析し、その関連資料を探索・理解することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮しつつ、集めた資料・情報等を他者に提示することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 発表およびその質疑応答において、論理的思考とその表現をすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 発表内容 (50%、到達目標 1, 2 に該当) と授業への取り組み姿勢 (50%、到達目標 1, 3 に該当) を総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 授業は2名の教員 (一見教員・松沢教員) で実施する。 受講者は、設定された課題に関する情報および資料を収集し、他の受講者にも理解できるように整理する。その内容を本講義内においてプレゼンテーションによって発表し、討論する。発表にはMicrosoft社 PowerPointを使用する。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。				
【授業計画】 第1回 ガイダンス、グループ分け、課題に関する講義など 第2回 課題の説明、取り組み方・発表方法についての説明 第3回 全学共通コンテンツ?1 情報整理の方法				

- 第4回 全学共通コンテンツ?2 日本語技法1
- 第5回 全学共通コンテンツ?3 日本語技法2
- 第6回 全学共通コンテンツ?4 レポートの書き方1、農学部分館訪問
- 第7回 全学共通コンテンツ?5 レポートの書き方2
- 第8回 全学共通コンテンツ?6 プレゼンテーションの方法
- 第9回 アドバイザーミーティング
- 第10回 発表準備1
- 第11回 発表準備2
- 第12回 グループによる発表1
- 第13回 グループによる発表2

上記の計画とは別に、新入生研修に相当する2回分の授業が実施される。

【自学学習に関するアドバイス】

配布するテキスト等を用いて予習・復習し、日常生活や他の講義において実践してみる。また、各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行う。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、課題に関連する文献調査のために積極的に図書館の蔵書を利用すること。また、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 講義の終了後をオフィスアワーとする。また、質問や相談は随時受け付ける（農学部 BE402-1）が、事前にメールで連絡すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、出席をとる。15分以上の遅刻は欠席として扱う。
原則として、第2回以降はノートパソコンを毎回持参すること。

教員の実務経験との関連

国立の研究所・大学において研究開発および教育に携わってきた実務経験をもとに、本授業を行う。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081605) 大学入門ゼミ A(5) Startup Seminar on Academic Literacy 微生物バイオテクノロジー入門 Introduction to Microbial Biotechnology	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 渡邊 彰	関連授業科目 生物学B、微生物学、応用微生物学I、応用微生物学II		
	履修推奨科目 生物学B、微生物学、応用微生物学I、応用微生物学II		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 バイオテクノロジーとは、生物が持つ様々な能力やそのメカニズムを、私たちの生活に応用する技術である。実際のところ、微生物を用いたバイオテクノロジーは、食料生産、医薬品生産、エネルギー生産、廃水処理など、古くより私たちの日常生活に密接に関わっている。 本ゼミナールでは、まず、大学での「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などについて学修する。その後、選択した課題についてプレゼンテーション資料を準備し、ディスカッションを通じて、微生物の持つ多様な能力やそのバイオテクノロジーについて理解を深めていく。			
授業の目的 大学とは、知的好奇心に基づき、自ら知識を身につけたり研究をしたりするところである。本ゼミナールでは、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修し、農学分野に深く関わる「微生物のバイオテクノロジー」を題材に、課題探求や課題解決のための能力を養う。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集し、整理して、まとめる能力を身につけることができる(共通教育スタンダードの「a: 課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 各自が設定した課題に対して、まとめ、相手にわかりやすいプレゼンテーションをする能力を身につけることができる(共通教育スタンダードの「c: 21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 微生物に関する基礎知識を身につけるとともに、それを利用したバイオテクノロジーについて説明することができる。			
成績評価の方法と基準 取り組み状況、課題レポート、プレゼンテーション、ディスカッションへの参画状況を総合して評価し、60%以上で合格とする(到達目標の1から4に対応)。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業方法] 第1回目の講義において「微生物のバイオテクノロジー」に関するアンケートを取り、受講生の興味や関心を踏まえていくつかの課題を提案する。その後、各受講生が取り組む課題を決定し、自分の担当回までに準備を行い、プレゼンテーションおよびディスカッションをしてもらう。課題プレゼンテーションは、合計2回行い、1回目で指摘等を受けたところを2回目で修正し再度実施する。 また、この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。			
[授業計画]			

- 第1回 ガイダンス、グループ分け、アイスブレイク
 第2回 微生物およびそのバイオテクノロジーに関する基本的な講義
 第3回 学部共通コンテンツ1
 第4回 全学共通コンテンツ1：コンプライアンスと研究倫理、課題の決定と取り組み方
 第5回 全学共通コンテンツ2：メールの書き方、ノートの取り方、図書館（農学部分館）訪問
 第6回 全学共通コンテンツ3：情報整理、レポートの書き方
 第7回 全学共通コンテンツ4：日本語技法
 第8回 全学共通コンテンツ5：プレゼンテーションの方法
 第9回 学部共通コンテンツ2
 第10回 アドバイザーミーティング①
 （第4?10回までの間に、決定した課題に関して学修し、プレゼンテーションの準備を行う。）
 第11回 受講生プレゼンテーションおよびディスカッション（1回目）グループ1&2
 第12回 受講生プレゼンテーションおよびディスカッション（1回目）グループ3&4
 第13回 受講生プレゼンテーションおよびディスカッション（2回目）グループ1&2
 第14回 受講生プレゼンテーションおよびディスカッション（2回目）グループ3&4
 第15回 アドバイザーミーティング②
 ※授業の進行状況等により、上記の授業計画は多少変更する可能性があります。

[自学自習に関するアドバイス]

学修した汎用的スキルについては、予習・復習を行い、他の授業や日常生活において実践してみる。また、受講生が選択した課題に対してのプレゼンテーションでは、十分な準備をしておくこと。さらに、課題のプレゼンテーションはグループ単位で行うので、準備の際は、グループ内で計画を立て、密なコミュニケーションをとり行うこと。

講義中に理解できなかったポイント等は、図書館およびオフィスアワーを利用し理解に努めること。

- 第1回 バイオテクノロジーについての予習（2時間）
 第2回 微生物の特徴と機能についての学修（4時間）
 第3回 微生物のバイオテクノロジーについての学修（4時間）
 第4回 コンプライアンスと研究倫理についての学修、課題の準備（4時間）
 第5回 メールの書き方やノートの取り方についての学修、課題の準備（4時間）
 第6回 情報整理やレポートの書き方についての学修、課題の準備（4時間）
 第7回 日本語技法について学修、課題の準備（4時間）
 第8回 プレゼンテーションの方法について学修、課題の準備（4時間）
 第9回 課題プレゼンテーション資料の作成（5時間）
 第10回 課題プレゼンテーション資料の作成（5時間）
 第11回 課題プレゼンテーション資料の準備、質問・コメントへの学修・対応（4時間）
 第12回 課題プレゼンテーション資料の準備、質問・コメントへの学修・対応（4時間）
 第13回 プレゼンテーション資料の改良、質問・コメントに関する学修（4時間）
 第14回 プレゼンテーション資料の改良、質問・コメントに関する学修（4時間）
 第15回 汎用的スキルおよび微生物のバイオテクノロジーについてのまとめ（4時間）

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントが中心となる。

オフィスアワー 講義終了後に行う。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う（研究室の場所：農学部キャンパス CW501-1）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

責任を持って課題に取り組むとともに、積極的にディスカッションに参加すること。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081606) 大学入門ゼミ A(6) Startup Seminar on Academic Literacy 2050年の「食」について考える (The future of food in 2050)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 石井 統也	関連授業科目 食品加工学、食品物理化学、食品タンパク質化学、食品化学、食品科学実験Ⅰ、食品科学実験Ⅱ			
	履修推奨科目 食品加工学、食品物理化学、食品タンパク質化学、食品化学			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 本講義の前半では、主に、大学での学習に必要となる、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」といったスキルについて解説する(全学共通コンテンツに基づく学習、第3～8回の授業)。本講義の後半では、食品の生産、加工、消費プロセスについて理解を深めることを目的として、導入となる講義や文献調査、プレゼンテーションを行う(第2回、第9～13回の授業)。 私たちにとっての「食」は、単なる栄養摂取にとどまらない、社会生活に密接に関わるものである。これまでも、社会の変容や自然環境の変化、科学技術の進展などにより、食品の生産や加工、消費は様々に変化してきた。本ゼミナールでは、これまでの「食」の変遷について概観する講義を行い、約30年後の2050年に向けて「食」にどのような変化が生じるか、受講生各自で探求する課題を設定する際の導入を行う。その後、受講生は、前半の授業で学習した内容を実践しつつ、設定した課題に関する情報の収集、整理を行う。取りまとめた結果は、他の受講生に向けて発表し、討論を行う。 なお、前半、後半授業共に、少人数での共同学習を取り入れる。				
授業の目的 大学では、教科書や授業から知識をインプットする受動的学習に加えて、自ら課題および解決策を発見することが求められる能動的学習が展開される。本授業の目的は、「食」を題材とした課題探求を通して、①参加型・能動的学習に慣れること、②能動的学習の前提となり、大学生・社会人として必須の種々の技能を育成すること、③グループでの作業を通して、責任感や協調性を養うことの3つである。				
到達目標				
1. 自ら取り組む課題を考え、それに関連する資料を探して、理解および分析することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解しやすくまとめることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 課題について調査してまとめた自身の考えを、文章(レポートなど)や口頭(プレゼンテーションなど)で、わかりやすく伝えることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. グループ内での討論や発表に対する質疑応答において、分かりやすく論理的に意見交換をすることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 社会や自然環境、科学技術の変化と、食品の生産や加工、消費との関連について、例を挙げて説明することが出来る(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)				
成績評価の方法と基準 成績評価は以下の項目を総合して行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業時のレポート提出(30%、特に到達目標3および5に対応) ・到達目標の達成度(20%、到達目標1～5の全てに対応) ・発表および討論への参加状況(50%、特に到達目標1および2、4に対応) 				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり				

とする。
合格又は了 到達目標を達成している。
不合格 到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 教員紹介、班分け、自己紹介、アイスブレイク、大学入門ゼミの説明、シラバスの確認
- 第2回 「これまで「食」の変遷」についての講義、課題の設定、取り組み方・発表法・実例の紹介
- 第3回 全学共通コンテンツ：日本語技法① 手順説明文、推敲の技法、メールの書き方
- 第4回 全学共通コンテンツ：日本語技法② 比較・対照、箇条書き、要約の技法
- 第5回 全学共通コンテンツ：情報整理の方法（ノートの取り方）
- 第6回 全学共通コンテンツ：レポートの書き方、文献検索、文献の引用、研究倫理
- 第7回 全学共通コンテンツ：理系学生のための実験レポートの書き方
- 第8回 全学共通コンテンツ：プレゼンテーションの方法
- 第9回 アドバイザーミーティング①、個人作業による口頭発表資料の仕上げ

（第10回目迄に各自の設定課題について自学自習し、口頭発表の準備を終えること）

- 第10回 グループ内発表、質疑応答対策、意見交換を踏まえた発表資料の修正と更新
- 第11回 全体発表（5名前後）、質疑応答、討論
- 第12回 全体発表（5名前後）、質疑応答、討論
- 第13回 全体発表（5名前後）、質疑応答、討論
- 第14回 アドバイザーミーティング②（新入生合宿時）
- 第15回 アドバイザーミーティング③（新入生合宿時）

- ・第2～13回の授業には、原則としてノートパソコンを持参すること。
- ・第3回の授業の途中で、農学部図書館分館の訪問と利用案内を予定している。
- ・第9回、14回、15回はアドバイザーミーティングを実施し、修学上の問題点について話し合う。
- ・授業は、原則として全て対面で行う。ただし、状況次第で授業の一部を遠隔またはオンデマンドに変更することがある。担当教員からの連絡（MoodleやDream Campus経由）や掲示などに注意すること。

【授業および学習の方法】

第2回の授業では「これまでの「食」の変遷」に関する講義を行う。この際、いくつかの課題例を具体的に提案する。この提案も参考にしつつ、自分自身で探究する課題を設定する。その後、課題に取り組むうえで基礎となる、全学共通コンテンツを主とする授業を実施している間に、各自の課題についての情報収集および整理、発表資料の作成を進める。発表は全ての受講生が行うこととする。発表には、Microsoft社のPowerPointを用いる。

【準備および事後学習のためのアドバイス】

第2～10回：各回当たり6時間程度を充てる。毎回の授業内容について復習する（3時間）。自身で設定した課題に関する自学自習を行い、全体発表に備える（3時間）。

第11～13回：各回当たり2時間程度を充てる。他の受講生の発表内容を整理し、討論のポイントとなった点についてのさらに情報収集を行う（1時間）。自身の発表が終わるまでは、全体発表にむけた発表練習を行う。また、自身の発表が終了した後は、発表の改善点をまとめ、質疑応答や討論でポイントとなった点について追加調査する（1時間）。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない（必要に応じて、プリント類を配付する）。

オフィスアワー 水曜日の本授業終了後とする（農学部CW401-3室）。これ以外の日程を希望する場合は、予めメール等で訪問の意思を連絡すること（日程調整を行った後に対応する）。

メールアドレス：ishii.toya@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。
また、情報収集には、積極的に図書館の書籍を利用すること。

ナンバリングコード BIACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081607) 大学入門ゼミ A(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (サイエンス事始め) Introduction to Science	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山田 佳裕, 鳴海 貴子	関連授業科目 環境科学・水環境科学 履修推奨科目 環境科学		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備・事後学習30時間)			
授業の概要 本講義では、サイエンスに必要な基本技能である情報の収集、日本語の技能、レポートの書き方、発表資料の作成などについて解説するとともに、具体的なテーマに取り組む過程で、それらの技能を習得することを目指す。			
授業の目的 人類が地球上で生存するには自然との共生、持続可能な社会の構築が不可欠であり、緊急の命題となっている。そのためには科学的思考が出来る人材が不可欠である。科学の視点から環境問題を考えることを通して、まずは、サイエンスに必要な基礎的技能を習得し、客観的・批判的思考を理解するとともに、自ら考える力を身に付ける。また、自らの考えを他人に伝えること、他人の考えを取り入れ自らの考えを構築する必要性を理解することを目的とする。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、発表に関する基礎的技能を習得する(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 ・講義を通して、大学での学問、社会における諸課題の解決に必要な批判的・客観的思考が出来るようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ・異なった考えを取り入れ、より発展した考えを再構築出来る(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 課題への取り組み、討論への参加状況を総合的に評価する(到達目標すべてに対応)。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回から第7回までは、大学入門ゼミA(7)と大学入門ゼミA(8)は共同で行う。第8回以降は大学入門ゼミA(7)と大学入門ゼミA(8)は分かれて講義を行う。アドバイザーミーティングは回数に含まれているが一部は時間割外で実施される。具体的な実施時期はガイダンス時に示す。			
第1回 本講義のガイダンス、全学共通コンテンツの説明 ・全学共通コンテンツに関する指導は、「遺伝子組換え農作物やゲノム編集農作物について考える」というテーマに取り組む中で行う。			
第2回 全学共通コンテンツ? 情報整理			
第3回 全学共通コンテンツ? 日本語技法(その1)			
第4回 全学共通コンテンツ? 日本語技法(その2)			
第5回 全学共通コンテンツ? プレゼンテーションの方法			
第6回 全学共通コンテンツ? レポートの書き方			
第7回 グループによる発表と全体討論			
第8回 テーマ1「化石燃料と地球環境について科学的に考える」 話題提供			
第9回 テーマ1 グループディスカッション			
第10回 テーマ2 「防災と水環境に関する合意形成」 話題提供			
第11回 テーマ2 グループディスカッション			
第12回 テーマ2 全体討論			

- 第13回 アドバイザーミーティング①
第14回 アドバイザーミーティング②
第15回 アドバイザーミーティング③

第8回以降

テーマ1では、共通コンテンツの続きで、再度、科学的思考（批判的思考、客観的思考）に挑戦する。教員から話題提供 → 各自の意見形成 → 数人でのグループ討論の順で行う。まずは、テーマに関する情報収集、多様な視点の理解、自身の考えの構築といった手順で各自の意見をまとめ、グループで討論を行う。その後、自らの考えを再構築し、レポートにまとめる。

テーマ2では、「科学者の社会的役割」を考える。学者、地域住民、行政など地域を構成する主体にわかれてのロールプレイングを行い、地域にとってどのような環境整備が望ましいのか合意することを目指す。科学的素養を持った人材の社会における役割を体験する。

以上の計画は、講義の進捗状況によって変更することがある（メール、Moodleおよび講義中のアナウンスに注意すること）。

授業形態

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行なう。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。

自学学習に関するアドバイス

講義中に適宜指示する。

教科書・参考書等

教科書は定めない。

オフィスアワー 随時。研究室に来られるときに、メールで事前に連絡すること。研究室は農学部BW405-3。メールでの質問も受ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

基礎的なスキルのマスターはもちろんですが、自ら考えることを重視して取り組んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081608) 大学入門ゼミ A(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (サイエンス事始め) Introduction to Science	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 鳴海 貴子, 山田 佳裕	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで必要なスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について学びます (全学共通コンテンツに基づく学習)。また、各受講生が興味を持っている科学に関して、グループワークや発表を通して、必要なスキルの定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学での学習に必要とされる参加型・能動的な学習姿勢を学び、専門科目の履修を円滑に進めるための基礎の習得を目指します。また、グループワークを通してサイエンスに必要な客観的・批判的思考を理解するとともに、自ら調べて考える力を養い、自らの考えを他人に伝えること、他人の考えを取り入れ自らの考えを構築する重要性を理解することを目的としています。			
到達目標			
(1) 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) グループワークや発表等を通して、大学での学問、社会における諸課題の解決に必要な批判的・客観的思考が出来るようになる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (5) 異なった考えを取り入れ、より発展した考えを再構築出来る (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 課題への取り組み、討論への参加状況を総合的に評価する (到達目標すべてに対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 第1回から第7回までは、大学入門ゼミA(7)・大学入門ゼミA(8)は共同で行う。第8回以降は大学入門ゼミA(7)と大学入門ゼミA(8)は分かれて講義を行う。 大学入門ゼミA(8)では、第8回の講義時に受講者に対してアンケート等を取り、興味の方向性を把握する。それを踏まえて、以後取り組むテーマを決定する。テーマに関して情報を収集して整理し、まとめたものを発表してもらい、質疑応答や意見交換を行う。 発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。なお、進捗状況によって計画を変更することがある。アドバイザーミーティングには必ず出席すること。			
【授業計画】 第1回 本講義のガイダンス、全学共通コンテンツの説明 ・全学共通コンテンツに関する指導は、「遺伝子組換え農作物やゲノム編集農作物について考える」というテーマに取り組む中で行う。			

- 第2回 全学共通コンテンツ? 情報整理
- 第3回 全学共通コンテンツ? 日本語技法 (その1)
- 第4回 全学共通コンテンツ? 日本語技法 (その2)
- 第5回 全学共通コンテンツ? プレゼンテーションの方法
- 第6回 全学共通コンテンツ? レポートの書き方
学部共通コンテンツ?農学部分館訪問
- 第7回 グループによる発表と全体討論

- 第8回 アンケート、グループ分け、課題の説明
コンプライアンスについて
- 第9回 研究倫理、アドバイザーミーティング①
- 第10回 受講者による発表、質疑応答、討論1
- 第11回 受講者による発表、質疑応答、討論2
- 第12回 受講者による発表、質疑応答、討論3
- 第13回 受講者による発表、質疑応答、討論4とまとめの講義
- 第14回 アドバイザーミーティング②
- 第15回 アドバイザーミーティング③

【自学学習に関するアドバイス】

- 第1回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(5時間)
- 第2回-6回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間)
- 第7回-13回 課題について、情報収集を行い、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備及び事後学習、レポート作成を行う。(30時間)
- 第9回、14回、15回はアドバイザーミーティングを実施し、修学上の問題点などについて話し合う。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後に行う。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081609) 大学入門ゼミ A(9) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの農学	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 吉原 明秀, 大野 健太郎	関連授業科目 基礎生物化学、酵素利用学、希少糖学 履修推奨科目 基礎生物化学、酵素利用学、希少糖学		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 前半では、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方や情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半では、われわれの生活に欠かせない酵素について紹介し、様々な酵素に関する理解を深める。その後、各自が興味をもった酵素が関係する課題を設定し、自ら情報収集し、まとめた内容についてプレゼンテーションおよび全員参加での討論を行うことで総合的な能力を身につける。			
授業の目的 本ゼミの前半では、全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。後半では、各自が設定した課題について自ら調べ、まとめた内容をプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連する資料を探索し分析・理解することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を他の人に理解できるようにまとめることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容を他の人に理解できるようにプレゼンテーションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢(主に到達目標(1)、(4)に対応)、プレゼンテーションの内容(主に到達目標(2)、(3)、(4)に対応)や討論での積極的な発言(主に到達目標(4)に対応)を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで興味のある酵素に関連する課題を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその課題についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 第2回 課題の説明、取り組み方と発表方法についての説明 第3回 全学共通コンテンツ?1 コンプライアンスと研究倫理 第4回 全学共通コンテンツ?2 ノートの取り方、メールの書き方 第5回 全学共通コンテンツ?3 レポートの書き方、文献の調べ方 第6回 学部共通コンテンツ?図書館農学部分館訪問			

- 第7回 全学共通コンテンツ?4 文章の作成と要約の方法
- 第8回 全学共通コンテンツ?5 プレゼンテーションの方法
- 第9回 アドバイザーミーティング
- 第10回 発表準備?1
- 第11回 発表準備?2
- 第12回 受講者による発表と討論?1
- 第13回 プレゼン資料 改良
- 第14回 受講者による発表と討論?2
- 第15回 まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

第4?11回：各回あたり計7～8時間程度をあてる

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

必要に応じて授業中に適宜指示をする。

オフィスアワー 水曜日5限（毎回の講義の終了後）とする。それ以外の時間を希望する場合は事前にメール等で連絡する事。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に参加すること。また、図書館等を積極的に利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081610) 大学入門ゼミ A(10) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの農学	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 大野 健太郎, 吉原 明秀	関連授業科目 農学入門、果樹学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 前半では、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方や情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半では、日本や世界の果樹園芸について解説する。その後、各自が興味をもった果樹を対象とした課題を設定し、自ら情報収集し、まとめた内容についてプレゼンテーションおよび全員参加での討論を行うことで、総合的な能力を身につける。			
授業の目的 本ゼミの前半では、全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。後半では各自が設定した課題について自ら調べ、まとめた内容をプレゼンテーションすることで、課題探求能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を他の人に理解できるようにまとめることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容を他の人に理解できるようにプレゼンテーションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢(主に到達目標(1)、(4)に対応)、プレゼンテーションの内容(主に到達目標(2)、(3)、(4)に対応)や討論での積極的な発言(主に到達目標(4)に対応)等を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は、興味のある果樹作物や果樹の栽培・育種手法に関連した課題について、資料を収集してまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその課題についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 第2回 学部共通コンテンツ?図書館農学部分館訪問 第3回 課題の説明、取り組み方と発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ?1 コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ?2 ノートの取り方、メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ?3 レポートの書き方、文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ?4 文章の作成と要約の方法			

- 第8回 全学共通コンテンツ?5 プレゼンテーションの方法
- 第9回 アドバイザーミーティング
- 第10回 発表準備-1
- 第11回 発表準備-2
- 第12回 受講者による発表と討論-1
- 第13回 プレゼン資料 改良
- 第14回 受講者による発表と討論-2
- 第15回 まとめ

【自学学習に関するアドバイス】

第4～11回：各回あたり計7～8時間程度をあてる

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

必要に応じて授業中に適宜指示をする。

オフィスアワー 水曜日の5限（授業終了後）とする。それ以外の時間を希望する場合は事前にメール等で連絡する事。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に参加すること。また、図書館等を積極的に利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-60-Eg2 授業科目名 (時間割コード:098101) 大学入門ゼミ Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2023年度 前期前半火6~7	対象年次 1~	
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 夜間主のみ 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。				
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。				
到達目標				
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1回 ガイダンス・自己紹介 第2回 情報整理の方法-その基礎 第3回 情報整理の方法-応用 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 日本語技法その2(わかりやすい文章にするために) 第6回 日本語技法その3(悪文の添削) 第7回 レポートの書き方の説明 第8回 レポートの書き方の実践 第9回 プレゼンテーションの方法 第10回 プレゼンテーションの実践(A班) 第11回 プレゼンテーションの実践(B班) 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表				

第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ

- *授業計画はあくまで計画であり、各クラス担当教員の判断や進捗状況により内容および順序を変更する場合があります。
- *通常の講義とは異なる時間帯で実施する場合があります。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。
- *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施する場合には、すべてに必ず出席すること。

【授業の方法】

講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは基礎的な内容ではあるが、漫然と聞かずにノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

教科書は指定しませんが、図書を推薦することが多々あります。

オフィスアワー 火曜日5時限目
南キャンパス7号館3階安井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

欠席しないこと。万一欠席する場合には事前に連絡すること（連絡すれば出席扱いになるわけではない）。演習では必ず発言すること。